

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (市立幼稚園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園名	市立幼稚園 集約分
------	-----------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします

(1) 就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園・認定こども園・保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を図るため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	三田幼稚園	三田市立幼稚園の研究推進に則り、設定した自園の研究テーマ「夢中になって遊び込む子の育成」に向けた取組みを行った。 外部講師を招聘した園内研究会(年3回)、園内実践事例研修(年5回程度)、職員間の保育カンファレンス(日頃より)。市内関係機関、市立幼稚園園長会主催研修会等参加。	子どもの主体性を大切にした保育の充実に向けた保育環境の工夫や教師の援助について実践に取り組んだ。 発達段階における子どもの育ち等について職員間で話し合い研究を深めた。 園内研究会では、講師の指導助言により子どもの育ちや教師の役割について学ぶことができた。	保育の振り返りや研修時間の確保。 研修の充実に向けた取組み方法の工夫。 各研修会への参加の日程や時間の確保。	職員間でのカンファレンス、研修のための時間の確保を計画的に行い実施する。
				三輪幼稚園	三田市立幼稚園の研究に即し、自園の実態から園の研究テーマを設定し、取り組んだ。 週1回の事例研修、外部講師を招聘しての園内研究会、三田市立幼稚園教育研究会を通して、取組みの深化をめざした。 園長会をはじめ、関係機関が開催する研修会に参加し、資質向上をめざした。	子どもが遊びを創り出し、遊び込む姿を丁寧に支え、「やってみよう」「もっとやりたい」「やりとげたい」と思える教師の援助や環境構成の工夫を探った。 また、援助の中の教師の発語に着目し、教師間で語り合う中で、自分自身の発語の癖に気づき、子どもの心に響く言葉がけについて学ぶことができた。	教師間で語り合う時間を作る工夫が大切であるとともに、非常に難しい課題でもある。また、教師自身が「もっとやりたい」と感じ、主体的、積極的にになれる研究の内容や進め方を考えていく必要がある。	業務の優先順位を考えたり、業務の見直しをしたりしながら、短期、長期の取組みを工夫し、見直しをもって業務を進めることで、必要な時間を捻出する努力をする。 語り合いの雰囲気大切に、短時間で話し合えるよう、ポイントを絞った内容となるよう工夫する。
				志手原幼稚園	・三田市立幼稚園の研究基本方針に基づいて自園の研究テーマを設定し、研究を推進した。12月に講師を招聘して園内研究会を行った。学期ごとの事例研修、日々の保育の振り返りを丁寧に研鑽を重ねた。園長会をはじめ、関係機関が開催する研修会に積極的に参加し、資質向上をめざした。	・講師を招聘し、いただいた指導や助言を職員間で共通理解して研究を深めていくことができた。事例研修を行い、幼児の内面をより深く理解し、環境構成や援助の工夫に努め、保育の向上に努めることができた。	・教師間の情報交換や検討のための時間を作る工夫が課題である。	日常的に継続して職員間でカンファレンスを実践していく。そのために見直しをもって仕事へ取り組み、研究の時間を確保して研究を保障していけるように工夫する。
				小野幼稚園	・三田市立幼稚園の研究に即し、自園の実態を丁寧に捉え、研究テーマを設定し、取り組んだ。 ・4・5歳児混合保育について近隣園の職員で話し合い、作成した冊子を元に、混合保育の課題や良さを確認しながら進めてきた。	近隣園の職員、講師との話し合いを通し、混合保育の成果と課題を再認識し、保育をすすめていくことができた。	コロナ感染予防により、実際に集まって研修をする機会は多くはなかった。少ない研修機会に、どのようなことを学びたいのかを明らかにして参加する必要がある。	職員間で連携を取りながら研修の機会を保障していく。また、後日報告会を設けるなど、職員全体の資質向上につなげていく。
				母子幼稚園	・三田市立幼稚園の研究テーマに即して自園の研究テーマを設定し、それに沿った日々の保育の進め方を探った。 ・市立幼稚園研究会・各園が実施する園内研究会・各種関係機関・市立幼稚園園長会主催研修会に参加し、職員の資質向上に努めた。	研修に参加することで、職員の学びや課題意識を持つことにつながった。また他園所の職員と交流し情報交換することで、共通理解をはかることができた。	極少数保育であり、友達との関わりを通じた学びの保障が困難となっている。	講師の招聘が難しい為、保育の振り返りや、園児の姿の見取りを職員間で日々行うようにした。特に印象的な事例については幼児理解に立ち戻り丁寧に分析していくようにした。また参加した研修の学びを職員同士で互いに伝え合うようにした。
				広野幼稚園	三田市立幼稚園の研究推進に則り、設定した自園の研究テーマに沿って、外部講師を招聘した園内研究会、園内実践事例研修、職員間の保育カンファレンスなどの取組みを進めた。 市内関係機関、市立幼稚園園長会主催研修会等参加。	子どもが心を動かし、意欲的に活動する姿について幼児理解を深め、学びに向かう力を育むための援助や環境構成のあり方について職員間で協議し、理解を深めることができた。 園内研究会では、講師の指導助言により子どもの育ちや教師の役割について学ぶことができた。	職員間の語り合い、保育の振り返りができる環境づくり 研修の充実に向けた取組み方法の工夫、研修時間の確保 各研修会への参加の日程や時間の確保	職員間でのカンファレンス、研修のための時間の確保を計画的に行い実施する。
				本庄幼稚園	三田市立幼稚園の研究推進に基づき、園の研究テーマに沿った研究の推進。外部講師を招聘し、園内研究会の実施。各種関係機関が開催する研修会に参加し、資質向上を目指した。	園の研究テーマに沿った取組みにおいて、幼児の主体性を大切にした保育に向けての環境構成や教師の援助について協議し、理解を深めることができた。 園内研究会では外部講師の指導助言をいただき、園の研究テーマに迫っていくことができた。	職員数が少ないため、それぞれの業務がある中での情報交換や保育を振り返る時間の確保が課題である。	優先順位を考えながら業務を進めていくことで、職員間での研修の時間を確保していく。
				藍幼稚園	園の研究主題に基づき、教師間での保育計画や保育の振り返りを丁寧にいった。県及び他市のweb及びリモート研修に参加した。市立幼稚園教育研究会に参加。	研究会や研修会に参加することで、教師の資質向上、または、日頃の保育を振り返る機会が多く持てた。	日々の園運営や保育が多忙になると、幼児の姿について職員間で連携をとり、話をすらすら時間が少なくなることがあった。	職員間で丁寧なカンファレンス(家庭環境の背景も丁寧にとらえる)を行う。
				松が丘幼稚園	三田市立幼稚園研究推進に基づき、自園の研究テーマを「自分らしさを発揮し、共に育ち合う子の育成」と設定し、幼児の思いやりの心を育む、環境構成や援助のあり方を探りながら、園内研究会、事例研修等の取組みを進めた。 各種関係機関、市立幼稚園園長会主催研修等に参加し、資質向上をめざした。	園の研究テーマに沿った取組みにおいて、幼児理解に努め、幼児の学びに向かう力が育まれていく過程や、その援助について協議し、理解を深めることができた。 各種研修を通して、職員間で学びを伝え合い、資質向上に努めることができた。	研修時間を確保することや、研修内容を充実させていくことが大切である。	研修会に参加しやすい体制づくりを行う。 幼児理解につながるカンファレンスを積み重ね、研修方法を工夫する。
				高平幼稚園	・三田市立幼稚園研究推進に基づき、園の研究テーマに沿った研究の推進。外部講師を招聘し、園内研究会の実施。関係機関が開催する各研修会、市立幼稚園園長会主催研修に参加。	・園内研究会では、外部講師に指導助言をいただいた。事例研修を行い、幼児の内面をより深く理解し、環境構成や援助の工夫に努め、保育の向上に努めることができた。 ・コロナ禍により、研修会等が開催されにくい状況であったが市内研修会に参加し、学びを得ることができた。	・コロナ禍により、全職員で関係機関が開催する研修会等に参加することが難しい状況にある。	・研修に参加するための体制、学びを職員間で共有するための場や時間を工夫する。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (市立幼稚園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園名	市立幼稚園 集約分
------	-----------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します

(2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	三田幼稚園	野菜の栽培を通して、生長の様子に気づいたり、野菜の特徴を調べたりしながら興味関心を広げ、収穫や食する喜びを味わう。給食食材提供など、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら食に関する関心への工夫を行った。地域の方に協力を得て、交流をしながら栽培活動に取り組んだ。	植え付けた様々な野菜の栽培、収穫活動を子どもが主体的に取り組むことを通して、栽培して食べることへの意識を持つきっかけづくりができた。保護者に対して園の取組みを伝え、親子で食に関して話をしたり興味関心をもってもらったりできるようなきっかけとした。	感染症予防や衛生面に十分配慮する中での、クッキング活動の実施の仕方を考える。家庭と協力して食育に取り組む工夫が必要である。	食についての様々な取組みが、子どもたち主体となっているかを点検し、子どもたちが参画できる活動内容の工夫を行う。園の取組みを分かりやすく保護者に伝えられるように努める。
				三輪幼稚園	野菜の栽培を通して、生長の様子に気づいたり、野菜の特徴を調べたりしながら興味関心を広げ、収穫や食する喜びを味わう。収穫した玉ねぎを給食センターに提供した。	野菜の栽培活動を通して、自分たちで育てる、収穫する、家庭に持ち帰ってクッキングをする経験ができたことで、命の不思議、食する喜び、食への興味関心や感謝の気持ちを深められるようにした。自分たちが育てた玉ねぎを給食に出してもらったことで、より食に関する興味が高まった。	感染症予防や衛生面に十分配慮する中での、クッキング活動の実施の仕方を考える。家庭と協力して食育に取り組む工夫が必要である。	食についての様々な取組みが、子どもたち主体となっているかを点検し、子どもたちが参画できる活動内容の工夫を行う。園の取組みを分かりやすく保護者に伝えられるように努める。
				志手原幼稚園	・園内での栽培活動を行い、幼児が世話や収穫を楽しんだ。コロナ禍で調理を体験することはできなかったが、育てた野菜を給食センターに届け、給食に使用してもらい喜びを味わった。日々の給食指導を通して、様々な食材にふれるように心がけた。	・自分達で栽培、収穫した野菜を食することで、食への関心も高まった。給食を生きた教材として活用し、食について興味関心をもつきっかけとなった。	・コロナ禍の中、園でのクッキング活動の実施の仕方の検討。また、園での経験不足を補えるような保護者への啓発。	・様々な食育活動が幼児主体となっているかを点検しつつ、コロナ禍の中、どのようにすれば幼児の学びにつながるのかを考えていく。
				小野幼稚園	地域の方の協力を得て、様々な栽培活動に取り組んだ。園での栽培活動の様子や取り組んでいることなどを保護者に発信し、収穫したものを家庭で調理していただくことにより、親子で“食”に対して興味をもっていただけるようにしてきた。	自分たちで栽培した野菜や果物を家庭で食すことにより、食へることに対し、より積極的な姿勢が見られるようになった。野菜や果物の生長から“生きている”ことを実感し、その不思議さや尊さについて触れる機会となった。	友達と一緒に心動し、土をつくり、栽培し、収穫の喜びを感じつつ、味わっていただくという一連の体験はとても貴重で大切だと考える。しかし昨年度も、新型コロナウイルス感染予防のため、クッキング体験については実施することができなかった。	感染予防に努めながら、園内でどのような直接体験ができるのか考えながら、工夫をして取り組んでいく。クッキングについても、1年間体験してこなかったことなので、丁寧にすすめていく。
				母子幼稚園	地域の方からお借りしている農園、園の花壇やプランター等で季節の野菜を栽培した。毎日変化を見ることができる場所においたプランターでイチゴやトマト・ピーマンを栽培し収穫を体験した。また小学生と共にジャガイモやサツマイモなどで栽培する経験を重ね、一年生と収穫したタマネギは、給食センターに届け、給食の食材に活用してもらった。	栽培活動では、日々世話をしながら生長を観察した。自分達で育て日々生長を身近に見ることで食に親しみを持つことができた。また収穫した野菜を家の人や給食センターの皆さんに調理してもらうこと、また自ら味わい、他の人にも食べてもらうことで、食を通して関わった人との温かいつながりを実感することができた。	野菜の栽培については野菜嫌いの子にとってプラスの体験となるようなきめ細やかな工夫が必要である。	園ならではの人のつながりに重点をおき、小学生、様々な職員、地域の方、給食センターの職員など、食を通じて様々な人とより一層つながっていける食育活動を工夫していくようにする。
				広野幼稚園	・園での季節の野菜の栽培を通して、野菜の特徴などを調べたり、生長の様子に気づいたりしながら世話をし、興味・関心を広げ、収穫する喜びを味わう。 ・保護者と一緒にサクランポの収穫を楽しみ、親子の触れ合いや食に対する関心をもつ。 ・給食時のひとくちおしゃべりタイムの活用、絵紙コンクール、食育フェスティバルへの参加。	・園児が栽培する野菜に加え、園内で収穫できる果実(ウメ、サクランポ、カキ等)の収穫を体験し、季節の果実に興味・関心をもつことができています。 ・コロナ禍により、園でクッキングの実施はできなかったが、収穫した野菜を持ち帰り、家庭で相談して調理していただいたことで、親子でかかわりを持ちながら、食する喜びにつながった。	食に関する活動を情報発信することで、食育に関心をもつ保護者が増えてきている。今後も情報発信し、食事への意識を高めて、家庭での食生活につないでいく。	教師自身が、食育について関心をもち、計画的に進め、食の大切さを保護者に情報提供するなど啓発に努める。
				本庄幼稚園	野菜の栽培を通して、生長の様子に気づいたり、野菜の特徴を調べたりしながら興味関心を広げ、収穫や食する喜びを味わう。地域の方に協力を得て、交流をしながら栽培活動に取り組む。	自分たちで世話をし、収穫した野菜を食することで、食への関心や、感謝の気持ちを育むことができた。	日々の生活の中で、食に対して関心が持てる環境作りが必要と考える。新型コロナウイルス感染防止に配慮する中で、クッキング活動についての実施の仕方については課題である。	様々な食材に触れる機会を作る中で、子どもたち主体の活動となるように内容を工夫していく。
				藍幼稚園	野菜の栽培を通して、生長の様子に気づいたり、野菜の特徴を調べたりしながら興味関心を広げ、収穫や食する喜びを味わう。	野菜の世話や収穫をおとして、その生長に興味や関心を持つとともに、食への意欲を高めることができた。また、絵本、給食センターからの動画配信等を利用し、活動に活かすことができた。	保護者にも食に対しての関心を高めてもらうように、クラス通信を活用し、家庭での食生活につなげていくよう促した。	食の情報を丁寧に、継続した啓発に努めた。
				松が丘幼稚園	・野菜の栽培を通して、生長の様子に気づいたり、世話を仕方を調べたりなど、興味・関心を広げ、収穫や食する喜びを味わう。 ・早生黒大豆枝豆のさやもぎ体験に参加し、地域の方の力をお借りしながら食に関する興味・関心につなげていった。	・自分達で大切に世話をし収穫できた野菜を食することで、感謝の気持ちを育むことができた。 ・地域の特産である黒大豆枝豆のさやもぎを経験し、保護者への「地産地消」の取組み啓発につながった。	感染症対策を徹底しながら、調理活動も取り入れていったが、例年のような多様な取組みは難しい。	食育計画を見直し、幼児の食への関心が高まるような取組みを工夫していく。
高平幼稚園	・醤油作り、ハチミツ搾り等、地域、保護者の協力を得て実施した。幼児が自ら考えたり、工夫したりすることを大切にしながら活動を進めていくことができた。自分たちで収穫したブルーベリーやさつまいもを使ってケーキを作っていたなど、地域との繋がりを紡ぎながら、食に関しての興味、関心を深められるように取り組んだ。	・自分たちが育てたい野菜を自分たちで選んで栽培することで、主体的に世話をしたり、収穫の喜びを味わったりする姿が見られた。自然と向き合う中では、思い通りにならない経験も重ね、友達と思いや考えを共有する姿が見られた。	・栽培活動、食の文化を継承する活動が、生活の中に組み込まれ、継続して取組を進められるような活動の工夫。	・日常生活に食の体験を組み込み、季節を感じながら、幼児が主体的に活動を進めていくための工夫。				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (市立幼稚園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園名	市立幼稚園 集約分
------	-----------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
70	園庭・園内開放	就学前の子どもとその保護者	在宅の子育て家庭に安全な遊び場や交流の機会を提供する。 ●実施場所 保育所・市立幼稚園・認定こども園	三田幼稚園	0歳児～5歳児とその保護者対象 園庭開放…2回 参加人数は延べ103人。	次年度入園予定の参加者にとっては、園の雰囲気を感じることが出来る機会となった。 保護者のお話サークルと参画し、手作りDVD視聴や絵本の読み聞かせなどを楽しむことができた。	地域内で家庭にいる未就園児の数が大きく減少していること、子育て支援の場がたくさんあることなどから、参加者数が減少傾向にある。	情報発信の工夫と内容の充実。
				三輪幼稚園	園庭開放…年間を通じて2回実施。 参加人数は、110人。	1回の事業に平均約50名の参加があった。 園庭に様々な遊具を準備して、年齢に応じた遊びを楽しめるようにした。 保護者同士がコミュニケーションをとれる機会になった。	運動遊具の活用や配置等、マンネリ化しないような工夫が必要である。 同じメンバーの参加者は、回を重ねることで保護者同士も顔見知りになり、交流を深めることができていた。	駐車場が確保できれば、広域からの参加も可能になるが、それは困難なため、参加者数の増加は難しい。 家庭にいる子どもたちの利用の掘り起こし方法の検討が必要であると考えます。
				志手原幼稚園	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、降園後の園庭開放「わんぱくひろば」は年間で1回、保育時間中の園児との交流「いっしょにあそび」は年間で2回実施した。	・コロナ感染予防のため園庭やテラスを利用した活動内容を工夫した。	・次回を楽しみにできるような魅力のある活動内容や開催に向けての知らせの仕方、気持ちのつなぎ方を工夫したりする。	・保護者同士の交流を深めやすいように、教師が橋渡しをしたり、活動の時にはゆったりとした時間設定にするなど、関わりがもちやすい場作りを心がけていきたい。参加したくなる内容の工夫を探り、案内チラシのレイアウトも魅力あるものに工夫していきたい。
				小野幼稚園	・年間3回(6月、10月、11月)園庭開放を実施 内容:園庭(雨天時:園内)での遊び ・年間3回(7月、10月、11月)未就園児との交流 内容:体験入園、手作りおもちゃ遊び まん延防止重点措置等が発出されている場合、中止あり	園庭開放では、在園児、妹弟も参加し、未就園児と在園児がふれあう機会となった。保護者同士のかかわりをもつ機会ともなり、子ども、保護者共に交流を深めるきっかけとなっている。 3歳児を招いての『なかよしタイム』では、入園前の子どもたちが幼稚園での活動に慣れる機会となった。	地域の未就園児の数が減少していく中、次回も参加したいと感じるような交流のあり方を工夫していく。	子育て支援事業についてのお知らせチラシを地域に配布し、実施日や実施内容などを知らせる。近隣の未就園児への声掛け等を依頼する。
				母子幼稚園	コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止する場合もあったが、年間 11回予定していたうち6回実施することができた。園庭や保育室を開放し、回ごとにテーマを設け、その都度違う体験ができるようにした。	小学生や小学生の保護者も参加していた。主に児童がリードし様々な年齢層が楽しめるよう配慮しつつ遊びを進めていた。また保護者同士も集い、子育てのことについてなど、意見交換をし交流する場となった。	小学6年生までが集うので、どの年代層も楽しめる用具・遊具・玩具等を選ぶ必要があり、また遊びのテーマ設定や企画の工夫が難しい。	参加者皆が一体となって楽しめる人形劇などを企画した回もある。また地域の方に内容をお任せし実施した回もある。地域の方に協賛してもらうことで、地域の様々な方にも集って頂き、年代を超えて子育てについて語り合うような場となっていくのではないかと。
				広野幼稚園	年2回のみ実施 参加人数延べ60名	実施可能な状況の際には、親子で楽しむことができた。 運動遊具を並べたり、砂場道具などで存分に遊んだりすることができた。	実施回数や方法の見直しにより、より多くの参加者が集える場を工夫する。	地域への情報発信の工夫 地域の子育て支援拠点としての役割が充実できる環境の整備
				本庄幼稚園	年2回の園庭開放を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により、中止となった。	コロナ禍で出会いの場の環境が整えられない状況ではあったが、未就園児の保護者の方と連絡を取り、近況等をお聞きすることを心がけた。	地域の未就園児数の減少している中で、保護者同士が交流を図ることができるような内容や環境を工夫していく必要がある。	情報提供の工夫や活動内容の工夫に努める。
				藍幼稚園	新型コロナウイルス感染症対策を行ない、園庭開放を5回実施。	園庭やテラスを利用するなど活動内容を工夫して実施することができた。	地域の子どもが減少し、参加者が減少傾向にある。	情報発信の方法を工夫し、幅広く周知する。
				松が丘幼稚園	ふれあいひろば(園庭開放)を月1回程度実施(9月～) 「運動あそび」へ、未就園児を招待(10月) 3歳児対象、保育体験「すくすく」の実施(11月) 4日、14日、24日を「芝生の日」とし、登園後～9:30の間、園庭開放を実施	ふれあいひろばでは、絵本箱「松の実」の方にお世話になり、わらべうたや様々な絵本に触れることができた。 地域の未就園児が、芝生の日を楽しみにしており、園児との交流も楽しむことができた。	地域の未就園児数の減少、就労家庭が多いため、参加者が固定されている。 新型コロナウイルス感染症対策により、実施できない期間があった。	情報発信の方法を工夫していく。 感染防止対策を徹底し、取り組みを見直していく。
高平幼稚園	・感染症予防対策を講じながら2日実施。園庭開放には、子ども同士、親同士が交流を図ることができるよう場作りに取り組んだ。	・園庭開放日には、バス通園児も参加し、園児、未就園児、保護者同士の交流の場となった。	・ふれあいを避けるという新しい生活様式の中で、感染症対策を講じながら、安心して参加し、交流を図ることができるような場や内容の検討が必要である。	・地域の未就園児に情報が行き届くよう、情報提供の工夫。・地域民生児童委員の方の協力を得ながら、内容の工夫や充実を図る。				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (市立幼稚園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園名	市立幼稚園 集約分
------	-----------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組内容	取組内容・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
71	市立幼稚園地域子育て支援推進事業	就学前の子どもとその保護者	未就園児の体験保育活動、子育て情報の提供や相談、保護者同士の憩いの場の提供と交流支援を行う。 ●実施場所 市立幼稚園	三田幼稚園	2,3歳児とその保護者対象の保育体験…2回。 新型コロナウイルス感染拡大のため、地域子育て推進事業“げんき”中止。	参加親子と在園児が3歳児が“人形劇”や“折り紙遊び”を一緒に楽しんだ。 次年度入園予定の未就園児にとっては、園の雰囲気を感じることが出来る場となった。	実施の情報発信。 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した実施の工夫。	内容の充実と情報発信の工夫を行い、できるだけたくさん親子に利用してもらえるように努める。 園ホームページでの情報発信の工夫。
				三輪幼稚園	地域子育て推進事業“げんき”を実施した。 内容…「ベビーマッサージ&わくわく親子遊び」 子育て支援推進事業“いっしょにあそぼう”は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止。	12組の参加があった。 ベビーマッサージや親子の触れ合い遊びを楽しみながら、子ども同士、保護者同士の交流の場となった。 入園前の親子が幼稚園の様子に親しむ機会にもなった。	駐車場の確保。 実施要項を多くの人に周知する工夫が必要である。	園児の日常の遊びを体験したり、園の様子を知ったりしてもらうことは、入園後のことを考えても、大変有効であると考えられる。 今後も、実施内容を工夫し、充実した事業となるように努める。子育ての相談をしやすい職員の雰囲気作りも大切にする。
				志手原幼稚園	・11月に子育て推進事業「げんき」を実施した。コロナ禍の中、計画通りの回数を実施することはできなかったものの、園庭やテラスを利用するなど感染対策を工夫して場作りをした。 ・保護者サークルの立ち上げや運営をサポートし、つながりを育む場作りに努めた。	・入園前の幼児や保護者が園へ親しむきっかけ、また保護者同士がつながり合う場になった。職員と保護者が日頃の子育てについて話すことができた。	・コロナ禍の中、内容の工夫をし、感染拡大防止に努めながら、安全安心な事業を進めたい。	・子育て支援事業の時間だけでなくとどまらず、子育て中の保護者が相談したり気軽に話をしに来たりできるようゆったりとした雰囲気作りと、丁寧な関わりに努めたい。
				小野幼稚園	地域子育て支援推進事業“げんき”を実施し、未就園児と保護者に参加いただくことができた。 未就園児と園児の交流活動については2回実施。まん延防止重点措置発出のため、1回は中止となった。	入園前から、幼稚園の様子に親しむ機会となった。 在園児も参加し、賑やかなひと時を過ごすことが出来た。	地域の未就園児数が減っており、保護者同士や子ども同士のかかわりがもたにくくなっている。	チラシや地域を通じた呼びかけにより、保護者同士、子ども同士、教師と保護者、子どものかかわりがもてる機会を計画していく。
				母子幼稚園	対象児不在のため未実施。			
				広野幼稚園	園庭開放年2回 未就園児と園児との交流年2回 入園前3歳児対象保育体験「うさぎっこクラブ」年5回 子育て支援事業「げんき」1回	3歳児の保育体験では、次年度からの入園を楽しみに参加する親子の姿が多くみられた。 園児と一緒に「ふれあいコンサート」や「人形劇鑑賞」を行い、同じ場で楽しむ経験をする事ができた。	新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した実施の工夫。	内容の充実と情報発信に努め、できるだけたくさん親子に利用してもらえるようにする。
				本庄幼稚園	新型コロナウイルス感染予防のため子育て支援事業を変更する。未就園児との交流においては、8月に水遊び、12月に人形劇鑑賞を行った。	開催日が限られていたが、園児と未就園児との交流の場になり、楽しむことができた。	地域の未就園児数の減少。 保護者同士が子育てについて話ができるような場や内容の工夫。	保護者同士がつながるきっかけの場となるよう、情報発信の仕方や内容を工夫する。
				藍幼稚園	未就園児交流は3回実施。 戸外活動や室内活動、また地域の方を園に招待するなど、様々な遊びが体験できるよう工夫した。	スムーズに、ゆったりとした時間配分の中、実施できた。	未就園児の数が減少し、参加者が減少傾向にある。	活動の情報を幅広く提供できるように、地域の方にも発信したり、職員が地域の未就園児の情報が得られる工夫(情報収集)をした。
				松が丘幼稚園	2・3歳児対象、保育体験「すくすく」の実施(11月) 園の行事「焼き芋パーティ」に就園前児を招待し、園児との交流を図る	数回の保育体験「すくすく」ではあったが、入園前に心配なことを相談できる場となった。 保護者同士が触れ合うきっかけとなり、顔見知りになり、子どもの話をする姿が見られた。	新型コロナウイルス感染症対策により、実施回数が限られてしまった。	就園につながる保育体験になるよう、実施回数を増やしていく。また、保護者同士がつながるきっかけをつくり、子育て情報の交流ができるように支援していく。
				高平幼稚園	・新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら、未就園児との交流(一緒に遊ぼう2日)、3歳児対象の交流(なかよしタイム3日)を実施した。積極的にふれあいの機会をもつ等の交流ができたため、製作活動等、内容を工夫して実施した。	・感染症対策を講じながら活動内容を工夫し、交流を図ることができるよう場作りに取り組んだが、支援の充実を十分に図ることができなかった。	・参加人数の減少。地域の子育て家庭が集い、子育ての仲間づくりができたり、教師に安心して子育ての相談や悩みを話したりできるような場や時間、内容の工夫。	・親や地域住民も支援の場に参画して相互に子育ての絆を紡いでいく。情報発信の方法を工夫しながら、親子の育ちの場としての役割や機能の充実を図る。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (私立幼稚園・認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします
(1) 就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園・認定こども園・保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を図るため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂第一 幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ○兵庫県 ・新任研修、児童虐待対応研修会 ○三田市 ・保育内容合同研修会 ・キャリアアップ研修 ・保育課題サポート事業の研修 ・保幼小中連絡会 ○私立幼稚園協会 ・研究部会 ○その他 ・養成校によるキャリアアップ研修 ・療育機関との連携研修 ・附属園公開保育 ・ICT活用セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、中止になったりオンラインになった研修もあった。 ・附属園で研修会を開催し、それぞれの園での取り組みを見合うことで、園に取り入れたり、情報を共有したりできた。 ・附属園の公開保育では、担任の良いところを認め、励ましのお言葉をもらうことで、担任の士気が高まりよい経験となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだことを職員間で報告、共有し合うことが難しい。 ・オンライン研修になったことで、移動時間がなく、受講しやすいというメリットもあった。 ・せっかくの附属園公開保育も、担任は保育があるため、参加することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修報告書の様式を変更し、内容報告と共に資料を添付して回覧することで、参加者以外も研修内容の理解に繋げていきたい。 ・附属園の公開保育をきっかけに、毎年計画的に実施できるようしっかり計画をしたい。
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂中央 幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ○兵庫県 ・新任研修(リモート研修) ・子育て支援研修 ○三田市 ・キャリアアップ研修(乳児保育) ○湊川短期大学 キャリアアップ研修(マネージメント) ・私立幼稚園協会 ・研究部会(リモート研修4回) ○キンダーカウンセラーとのカンファレンス ○公開保育後のカンファレンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染防止により新任研修を初めとする研修の多くが今年も中止もしくはリモート開催となった。 ・園外での研修が少ない分、園内での研究保育を実践し、ふりかえりを行った。 ・公開保育は秋(9月)に湊川短期大学の松本直子教授を招き、小学校校長を始め、他の幼稚園長、教員、本園保護者の方が参加。年長組の綱引きの活動を見学してもらった。ふりかえりでは公開保育を行った担任3人が評価、反省を話した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・免許更新は対象者が全員受講できた。 ・三田市のキャリアは人数制限があり、希望者全員が受講できず、次年度に回ってもらうことになった。だいたい教員が4分野の受講が修了している。 ・キンダーカウンセラーとのカンファレンスは定期的に行っていて、園児や保護者対応の参考に大いに役立っている。カウンセラーもその子どもの様子や実態を見た上でご指導くださるのが有り難い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年もリモート研修が多く、対面での講習、研修が受けられなかった。新任研修もリモートになり、他の幼稚園教員との交流が交わされなかったのは残念であった。 ・園内研修は定着化しつつあるので、このまま継続していきたい。園内研修で発表する教諭は緊張感があるものの、自分の保育を他者が客観的に感じたことを知る機会として、前向きに受け止めている。この姿勢が力量を高めるものになると思われるので、順番制ではあるが、毎年定期的に開催を続けたい。 ・時間帯を今年度は午前中ならいつでもよいとして、きやすいようにしたつもりが、逆に見ている時間が違うと他者の意見に同感することもできないことがわかり、設定した1時間で見合うようにした。この間、副担任で子ども達を見てもらい、担任が公開保育に参加できるようにしているが、人数が減ると園児の安全確認が出来にくくなるところが改善点である。
				ふじ幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・三田市特別支援教育講座 ・三田市私立幼稚園連合会主催の研究部会 ・三田市人権を考える会(就学前部会) ・学校園所にかかる研修会 ・市内幼稚園連携推進事業 ・保幼小中連携研修 ・新任研修 ・園内研修 ・キャリアアップ研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の研修に参加し学ぶことで、保育技術を高め資質の向上に繋がっている。 ・園内研修の実施を行うことで、互いの保育からの気づきも多く、良い方向に改善できる機会となっている。 ・オンラインで受講できる研修も増え、時間を有効に活用できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講後は職員会議を開き、研修内容を共有できるよう取り組んでいる。 ・研修に参加できる職員が限られてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだことをまとめたレポートを職員間で共有するなど、さらに有効な活用方法を検討する。 ・会議以外の場でも、情報交換の場を持ち、より多くの保育知識を得ることができるよう取り組み、職員の資質向上に努める。 ・実技研修の充実を図る。
				認定こども園 三田あさひ幼 稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇や週末等の実技研修がコロナ禍により軒並み中止となったが、オンラインでの研修は例年以上に参加することができた。 ・園内研修も積極的に実施し、主任・副主任・保育主任を協議に入れることにより園の保育の考え方を浸透させた。 ・私立幼稚園連合会主催の研究部会は例年通り各園と保育の情報共有を実施した。 ・三田市主催のキャリアアップ研修にも参加でき、保育園所の保育者と共に研修に参加することができ、多岐に亘る視点で学ぶことができた。 ・三田市教育委員会主催の研修 ・三田市立幼稚園実施の研修 ・兵庫県私立幼稚園主催の研修を含む 実技や講義 ・三田市特別支援教育講座 ・三田市私立幼稚園連合会主催の研究部会 ・三田市人権を考える会(就学前部会) ・保幼小中連携研修 ・新任研修 ・園内研修 ・キャリアアップ研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実務の忙しさ、夕方まで園で保育していることを鑑みても、平日に市内および県内の研修会に参加は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の時間の確保、日程の調整が必要である。 ・研修に参加したものが、参加していない職員に研修内容を報告する機会を多くすることが必要である。 ・研修は資質向上のために必要であるが、勤務時間内と勤業した際、他の職員を出勤させて預かり保育等を保育することとなる。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (私立幼稚園・認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします
(1) 就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園・認定こども園・保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を図るため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	認定こども園 三田さち幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・研修(マーチング・パラバルーン・ダンス・楽器等) ・保幼小中連携にて行われる研修(相互理解・交流・幼稚園から小学校へスムーズに進学する研修) ・三田市私立幼小中連携にて行われる研修 ・就学前部会における研修 ・キャリアアップ研修(三田市実施に参加) ・園内研修(救命救急・キンダーカウンセラーの先生による研修) ・中学校区の連絡会 ・特別支援教育の研修 ・新人研修 ・子育て支援研修参加 ・食物アレルギーの児童に関する研修 (Zoom研修含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教諭自身で学びたい研修等に行き、学んだことを園で情報交換・発表できるようにした。 ・園内研修では、キンダーカウンセラーの先生に日頃から質問したい事項について、様々なことを聞けて、今後の保育に役立てることができている。 ・幼小連携において、コロナ禍でしたが、可能な限り小学校の先生とお話をする機会が増え、連携を深めることができた。 ・食育やアレルギーに関する講習会にも参加、知識を深める。 ・コロナ禍で中止になったものも多かったが、Zoomなど活用し学ぶことができた。 	<p>今年度は忙しい中、お互いに協力し、できる限り研修時間を昨年より多く受けるよう取り組みましたが、Zoom研修を活用しても受けたい講習を探るのは困難であった。</p> <p>夏の研修等も参加することはできるが、預かり保育等実施しているため、受講者が制限され、まとめて参加することができなかったことに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重要と思われる研修にできる限り参加できるように、ミーティングによりスケジュールリングする。 ・園内研修の機会を増やす。 ・各教諭同士での研修内容の情報交換がもつとできるようにし、様々な面で保育に生かせるようにしたい。 ・パソコン等で共有することで、ファイルを作成し、研修の内容を共通把握することをさらにすすめていくことが重要である。
				三田つつじが丘認定こども園	<ul style="list-style-type: none"> ○新規採用職員研修 ○マナー研修 ○三田市主催の各種研修会に参加 キャリアアップ研修、特別支援教育研修、保幼小連携、就学前部会などの研修に参加。 	<p>様々な研修に参加出来るように努めた。</p> <p>また、職員に研修予定を周知し、参加したい職員を募ったり、色んな職員が研修に参加出来るようにした。</p>	<p>時間によっては、参加しにくいものもあった。</p> <p>コロナ禍で、研修会に人数制限が設けられ、参加したくても出来ない職員もいた。</p>	<p>職員の知識やスキルの向上の為、参加できなかった職員にも研修内容を丁寧に伝える時間を確保したい。</p>
				三田けやき台認定こども園	<ul style="list-style-type: none"> ○新規採用教員研修 ○マナー研修 ○三田市教育委員会主催の各種研修会に参加 キャリアアップ研修・保育課題サポート事業研修・保幼小中連携推進研修会・中学校区連絡会・特別支援教育研修会・就学前部会等に特別支援教育研修等の研修に参加し保育の技術だけではなく知識を得る事で自分の力とする。 	<p>様々な研修に参加出来るように努め、職員の質の向上、自分の幅を広げると共に自園の保育力UPにつなげている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員がバランスよく研修を受けられるように申し込みをしたが、コロナの影響で受けることが出来ないこともあった。 ・研修参加後の研修報告書を回覧しているのので、全職員が共通理解できるように工夫している。 ・日々、慌ただしい日常が続く中、自ら時間を作り、自己向上心を持ち、様々な研修に参加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内で偏った研修に参加しがちなため、知識、技術習得の為、より沢山の研修に参加する。 ・キンダーカウンセラーからの園児や保護者対応の参考が役立っている。カウンセラーもその子どもの様子や実態を見た上でご指導くださるので助かっている。
				認定こども園 やよい幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ○新規採用教員研修 ○三田市教育委員会主催の各種研修会 ・キャリアアップ研修 ・保育課題サポート事業研修 ・保幼小中連携推進研修会 ・各中学校区の連絡会 ・特別支援教育 ・コーディネイター研修 ・就学前部会 ○兵庫県私立幼稚園連合会研修 ・子育て支援研修 ・近畿地区研修大会(オンライン) ・キンダーカウンセラーによる訪問研修 ・教員研修大会(オンライン) ・主幹保育教諭研修 ○三田市私立幼稚園連合会 ・研究部会 ○夏休みを利用して研修(オンライン) ○園内研修 ・特別支援研修 ○公開保育(前日に中止) ○かるがも園 こども療育講座(オンライン) ○働き方改革講演会 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、可能な限りの研修会に参加することができた。その上、オンライン研修が多かったので、多くの保育教諭が園と一緒に研修を受けることができた。 ・公開保育については、全て準備した上で前日に、まん防が発令され、中止になったのが残念であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実 ・三田市主催のキャリアアップ研修の参加人数が増えることを希望する(貴重な研修の場をいただいている) 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の工夫

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (私立幼稚園・認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします
(1) 就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園・認定こども園・保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を図るため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂学園 幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ○兵庫県私立幼稚園協会 ・新任研修(リモート) ・教員研修大会発表(リモート) ○三田市 ・キャリアアップ研修 ・三人考(就学前部会) ・保幼小中連携 ○附属園、短大との連携研修会 ○その他・公開保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮のいる子どもについての意見交換や、情報共有等をする時間を多くもつようにした。 ・昨年同様、カウンセラーの先生に継続して園児をみてもらうことで、サポート方法をアドバイスしてもらえた。 ・公開保育研修会では、近隣園より参加していただいた先生方から意見や感想を述べていただき、また、短大教授の助言もあり、多くの学びある時間となった。 ・教員研修大会の発表園ということもあり、私立幼稚園10園の小学校へのスムーズな接続への取り組みの情報共有の為にアンケートを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であったので、神戸や大阪等で毎年開催される運動あそび研修には参加できなかった。 ・コロナ禍で公開保育を開催した為、外部からの参加者は、やはり少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の内容を検討し、定期的に行えるよう計画する。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為に衛生面について、今後も徹底が必要。
				親和幼稚園	<p>多くの研修会が中止になったり、オンライン研修になったりした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①兵庫県私立幼稚園協会主催の研修会(子育て支援研修、新任研修・地区別教員研修会)にオンラインで参加 ②三田市主催の研修会(保育課題サポート・キャリアアップ研修など)に参加 ③公開保育研修会を開催し他校園と交流・参加 ④園内研修会を実施(研究保育各クラス1回・教材研究研修・実技研修・実践検討研修など) ⑤関係園3園で保育参加交流研修を日程調整をして全員参加で実施。 	<p>今年度も園外への研修の機会が減少していたため園内で研修の機会を工夫しながら取り組んだ。</p> <p>研究保育・実践検討研修については学年ごとに研究協議し、全員参加できる形にしていった。必要に応じて全体研修をもち、課題解決に向けて共通理解する機会を持つなどして、資質向上を図っていった。</p> <p>交流研修では保育の方法はいろいろあることに気づいたり、自分の保育を見直す機会になり大きな学びにつながった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで機会の減少は見られたのは大変残念であった。 ・対面の研修が少なく、交流することは難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の課題、保育の課題などを明確にし、幼児のより良い成長につながる保育の創造についての研修機会を確保していくこと。 ・コロナ感染症対策をどのように徹底していくかの情報収集と実施。 ・コロナで機会の減少は見られるが、可能な形で研修の場を確保していきたい。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (私立幼稚園・認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します
(2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂第一 幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー対応を個別に行い、代替(場合によっては除去)で対応をしている。 3歳児に一名、アレルギーが多岐に及ぶ園児がおり、対応が難しい時にはお弁当のお願いをしていた。この園児はエビペンも所持していたため、養護教諭が食事介助をしたり、他児と交わらない様配慮しながら進めた。 園児のかかりつけの医師よりアレルギーによる診断書を提出してもらい、保護者、委託業者、園と連携をはかっている。 夏野菜を中心に栽培から収穫、調理を行う。 5歳児は包丁の使い方や野菜の栄養について学ぶ機会を設けているが、感染症が心配されたため、例年通りとはいかなかった。自分で調理したものを自分で食べる、という方法にして出来る範囲で実施した。 季節の行事に応じたクッキングや給食メニューを取り入れる。(例～七夕、お月見団子作り、おもちつき、節分、雛祭り等、旬の食べ物を使ったメニュー) 給食日より献立表にて、旬の食べ物を伝えたり、食と健康についての話題・メニューの由来、また栄養について知らせる。 地産地消を取り入れ、三田牛、三田かぼちゃ、味噌等地元の食材を堪能する日も設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー対応については給食業者と密に打ち合わせをする。個別のトレーと容器で配膳をわかりやすくしたり、保護者との連絡を密にとり安全面に十分配慮した。給食室から出すときの確認を怠らず、徹底して配ることができた。 自分たちで育てた野菜ということで苦手であっても少し食べることができるようになり、野菜を作ることの大変さを知ることができたりと良い経験となった。 自分たちで調理をすることで感謝の気持ちを持った。家庭でも手伝ってみようとする気持ちがうまれた。 昔からの行事や習わしなどに興味をもつことができた。 栄養士作成の献立表のもと、バランスの良い食事の提供ができた。園児や給食参観にこられた保護者の方にも好評であった。 残食の量や味付けに関しては、その都度栄養士と園とで意見交換ができ、良い関係性が築けている。 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー疾患児が年々増えてきている。メニューについても工夫が必要になってきた。 栽培については夏野菜限定になってしまうことが多い。また、栽培についての知識が担任によってばらつきがある。 クッキングでは包丁を使うため、安全面について十分な配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理業者との連携を十分とっていく。また、保護者との話も定期的に行うのが望ましい。3園合同では、一回しか実施できなかったため、次年度はもう少し回を重ねたい。 養護教諭、担任、調理員はアレルギー対応や処置の仕方、個々の特性を十分把握しているが、預かり保育の場面において、不十分な時があった。預かり保育の職員や非常勤講師にも周知させていきたい。
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂中央 幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 自園調理の給食により、温かいうちに配膳、喫食ができる。 栄養士による園独自の給食メニューを作成している。三田市の地産地消の取り組みから三田牛の肉じゃがと三田黒豆味噌の味噌汁と作ってもらった。着ぐるみや栄養士の食育指導講座は蔓延防止期間で中止した。保護者への給食参観はコロナ対応のため、中止した。 アレルギー児に対しては、給食委託業者、園、保護者間で連携をとる。また、医師の指示のもと、代替え食の提供を行った。 アレルギー疾患生活管理指導表を作成し、医師による診断書として統一した。 夏野菜の栽培を行い、自分たちで育てたり、実際に収穫し食べたりした。 年長児を対象にクッキングを行い、包丁の使い方を知ったり、食材の栄養について学んだりした。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士作成の献立表のもと、栄養の偏りや食材の偏り、配膳の工夫に気をつけることができた。 職員全体での給食指導により、好き嫌いについても食べられるように励ましたり、一人ひとりに合った適切な量を配膳するなどし、残食が少なくなってきた。 アレルギー児に対しては誤配防止策として、食器の変更、トレーに記名、提供時の確認をしてきたが、2件、預かり保育中のおやつ提供で誤ったおやつを提供する事案が発生した。何度もチェック体制を取っていても、起きてるのは過信、連絡ミスだと思う。声がけチェックや配布前の徹底確認、複数の確認を徹底する。 今年のクッキング(年長組)は11月に行ったデイキャンプに照準を合わせて、年間、キャンプスタイルで行った。 ソーセージ、じゃがバター、マッシュマロ、トウモロコシの皮むきなど。黒豆の枝豆もぎ体験、田植え、稲刈り、芋の苗植え、芋掘りなどは例年通り行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 委託業者による地産地消の献立が今年も取り入れられた。肉の味がとてつもなく違うのは子どもたちもわかり、残食がない。三田のコシヒカリのご飯、肉じゃがと黒豆味噌の味噌汁はどれも美味しくて、好評である。家に帰って保護者にすぐに伝えていく様子からもわかる。 今年アレルギー対応児が20名と増えているので、緊張感をもって対応した。誤食が起きる時はイージーミスが原因のことが多いので、必ず複数で声を出して確認することを徹底したい。 おやつの提供時などではできるだけ全員が同じものを食べられるようにしていくと提供できるおやつが限られている。食材の限界を感じる。 野菜の栽培においては、夏野菜中心に偏ってしまいい、年間を通じての栽培ができていなかった。畑を年中使えるように、花壇と分けて活用範囲を決めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事の味付けや調理方法に差がある為、食わず嫌いの場合が多い。食が進まない園児に対しては家庭との連携を深めていく。 アレルギー対応児へのおやつ情報があればありがたい。 年間を通してどのような野菜が栽培できるか職員も調べるのと同時に、年間計画をして保育に取り入れる。 クッキングで怪我をする子どもはいなかった。保育者が隣で常に見守る体制が良かった。 食材、献立のこだわりが強い園児への対応が難しくなっている。保護者とも連絡を取り合いながら、栄養よりもまず食べる意欲を育てることを優先したい。 過食の園児も時折いるが、肥満児となると250名の園児でも2人しかいない。2人の園児の体格や好き嫌いも関連づけ、バランスの良い食事を摂らせたい。
				ふじ幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー疾患のある園児への対応食の提供を行っている。 食に関する教育活動(手遊び、絵本、職員による劇等)を保育に取り入れ園児が食についての知識を得る機会を設けている。 食育カードを作成し、全園児に配布している。カードには保護者が体温、睡眠時間、朝食摂取の有無や排便の有無を記入、毎日持参し登園している。定期的集計結果をグラフにして保護者に配布。集計表や、献立表に食に関する記事や情報を掲載している。 夏野菜の栽培やぶどう狩り、芋ほりの体験も行っている。 誤飲防止に努め、よく噛んで食べることの大切さを伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食委託業者とのメニューやアレルギー対応などにについての話し合いを多く設け、連携をより深めることができた。 食育カードを記入することにより、子どもの体調の変化を把握しやすくなっている。 今年度もコロナ禍にあり、給食委託業者と子どもたちとの交流の機会を持つことができなかった。 繰り返し確認を行うことで、子どもたちがよく噛んで食事を進める姿がみられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 好き嫌いや偏食の子どもが増えている。保護者によっては子どもの負担になることを避けたいと考えられている方もあり、指導の難しさを感じている。 子どもの姿と睡眠時間の関係が大きいことが感じられるが、家庭環境などにより改善が難しい子どももいる。 コロナ禍にあり、黙食に取り組んでいる。そんな状況でも少しでも楽しい雰囲気食事ができるよう歌を流すなどの配慮を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もカードの記入とともに、情報の提供や交換を行い、保護者の意識を変えていきたい。 給食を食べる時間の設定(終了時間) 量の調整
				認定こども園 三田あさひ幼 稚園	<ul style="list-style-type: none"> 自園調理の給食活動を行う上で、日常的に食育教育の推進を図ることが出来た。 例年行っていた園庭栽培の野菜を用いたクッキングはコロナ禍において実施できなかった。 例年行っていた保護者の給食試食会はコロナ禍において実施できなかった。 全職員でアナフィラキシーとエビペンの講習会を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食日より、日々の指導の中で意識付けができ、食習慣の啓発が出来た。 完全自園調理であり、代替メニューもそれぞれのアレルギーに対応しているため、保護者からも非常に喜ばれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携する中で、各家庭によって意識の差が大きいこと(食事のマナー、お箸の使い方、姿勢、座り方等はすべて家庭教育であるべき) 	<ul style="list-style-type: none"> 食育や給食日よりなどで、具体的な手法を伝えていく エビペン持参児が例年よりも多く、間違いのない給食提供を職員間で意識していく。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (私立幼稚園・認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します
(2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	認定こども園 三田さち幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキング 子どもたちで野菜を切ったり、炒めたり、包んだりし、クッキングを楽しむ。コロナ禍の中、実施回数は減ったが、感染拡大防止に配慮しながらできることを考えて実施。 ・野菜の栽培(ピーマン・トマト・ナス・さつまいも・枝豆など) ・絵本・紙芝居・エプロンシアターによる食育に関するお話(好き嫌いをしない・いろいろな食べ物の栄養の話など) ・おいもほり(園内で栽培し収穫。土に触れ、作物の実りに感謝する) ・野菜のスタンプ、野菜の絵を描くなど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより、数少ないクッキングの中で、いろいろな食材や料理の作り方などに興味を持つことができ、嫌いだっただ野菜も実際料理をして食べてみることで少しずつ好きになることができた。 ・野菜の栽培では子どもたちで水やりをして成長を楽しむ中でどういう風に成長するのか何色の花が咲くのかなど体験のなかでわかることができた。 ・収穫した野菜を使って料理を作り、花をすりつぶして色水遊びを楽しみ、その経験から家でも料理を作ってみようという意欲がわき、家庭でも一緒に料理を楽しむことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー等で食べられない食材があり、代替の食材を使ったり、抜いた物を作る必要や、その食材が入っていないメニューを考える必要がある。 ・コロナ感染に配慮しながら、行うことへの難しさを感じる。 ・小さい学年の園児も安全に調理を行えるよう、調理器具の扱いに注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四季に応じた旬の食材を使ったメニューを考え、季節を感じさせたい。年間の行事にちなんだメニューも考えていきたい。 ・おいもほりに行かない低年齢のクラスやおいもほりに参加できなかったお子様のために、園でおいも畑を作り、園内でお芋ほりを楽しむことを引き続き取り組んでいく。 ・多くの野菜の種をまき、子ども達と一緒に成長を楽しみたい。水やり番を設け、クラスごとの畑を設け、各クラスに責任感をもたせる。
				三田つつしが丘認定こども園	<ul style="list-style-type: none"> ・自園調理による完全給食を実施。温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たいうちに、食事を提供している。 ・食物アレルギーや、個々の離乳食の進捗に合わせた給食の対応をすることで、どの子にも乳幼児期の子どもの健康作りの推進を図った。 ・園庭に栽培コーナーを作り、畑や花壇に夏野菜やさつま芋の栽培をした。できた野菜は子ども達と一緒に収穫し、給食の食材の一部として提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自園調理の為、調理している現場を見学する事も出来た。 ・子ども達も無理なく様々な食材や献立を食べることが出来た。 ・自分たちで作った野菜は特別なようで、普段は野菜が苦手な子どももすすんで食べる事が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の栽培や、食物アレルギー・離乳食対応など職員の知識を深めることも大切だと考える。その知識を栽培や食育を通して、子ども達にも伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のため、食品を扱ったり、食べたりする環境を適宜変更しながらも、何が出来るかを考え、工夫しながら子ども達に食事のマナーを伝えたり、食育を進めていく必要がある。
				三田けやき台認定こども園	<ul style="list-style-type: none"> ・自園調理による完全給食を実施している。温かいものは、温かいうちに、冷たいものは、冷たいうちに食事を提供している。 ・食物アレルギーに対応した給食作りを対応した給食をする事で、乳幼児期の子どもの健康作りの推進を図っている。 ・離乳食の対応 ・サツマイモ、ジャガイモの収穫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ならではの食材を使用。 ・給食の献立レシピが人気。喜ばれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物作りが場所の確保が難しく、出来る作物に限られるので、関心が高まる様に努める。職員の知識も深める事が大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビニールハウスなどと農作物が育つ現在、スーパーでも、季節ならではの食物が分かりにくいので、子ども達に季節の野菜を伝えていきたい。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、飛沫防止パーテーションを使ったり、間隔をあけたり、人数を分散したりと時間を要することはかりが増えているが、黙食を引き続き行いながら、過ごす。
				認定こども園 やよい幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ○開園以来の自園調理による給食を実施、温かい食事 ・食材については地場野菜を使用 ・個別にアレルギー対応した給食づくり ○保護者に食に関する理解を図る ・給食参観は中止 ・毎月の給食だよりで食に関する内容、献立やおやつレシピ紹介 ・朝ごはんの大切さと協力依頼 ○園庭の畑で、野菜の栽培・収穫・クッキング ○小学校の畑を借りて、さつまいもを栽培・収穫・給食の食材に ○田植え前の水をはった田んぼで遊ばせてもらい、稲の生育(米やごはん)に興味を持つように絵本等を通して知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○早寝早起き朝ごはんを親にも子にも推奨、実践してもらおう ○給食の献立レシピ・おやつレシピを喜ばれる ・給食メニューのレシピを聞かれる保護者もあり、食への関心にこちらも喜ばせてもらうことがある ○手作りおやつが子ども、保護者から人気である ○小学校の畑を貸してもらえ、小学校に行く機会も増えた ○アレルギー児の誤配・誤食がないように担任・保護者・給調理員等の連絡・連携を徹底するよう努めた(エビベン持参児がいるので、アレルギー発作時の園内役割分担表作成) ○給食時、パーテーション私用の上、子どもも黙食を意識している 	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児については、保護者と毎日確認ノートを作成し、双方徹底して意識すると同時に提供する側の共通確認を徹底し、誤植のないように最善を尽くしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関心を持つよう給食の食材に興味を持つよう食育教育の機会を増やす。
認定こども園 湊川短期大学 附属北摂学園 幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・自園給食の実施、季節感のある献立や、あたたかいものは、あたたかくいただける美味しさを子どもたちも感じ、毎日給食を楽しみにしている。アレルギー対応食、代替食の実施。園児が野菜、米を育て栽培し収穫し調理し食するまでの過程を体験する。 ・各クラスで野菜の苗や種を植え、観察し、収穫をするまで大切に育てる。 ・自園の畑で植えたさつまいもを収穫し、集めた落ち葉を使ってやきいもを体験する。 ・地産地消の取り組みとして三田牛の牛丼を食べたり、栄養士の食育指導講座も行った。。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の様子を近くで子どもも見ることができ、匂いを感じたり、食材を知ったりできる。 ・野菜の栽培にどのクラスも成功し繰り返し収穫を楽しむ事ができた。 ・アレルギー対応の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の献立で季節感を意識してもらったりしているが、費用の事もあり地産地消が難しい。 ・クッキングが例年通り実施できなかった。内容は検討できるが、消毒や飛沫防止等の策に時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、皆で食べるという行為に関して、飛沫防止パーテーションを使ったり、間隔をあけたり、人数を分散したりと時間を要することはかりが増えているが、今後も徹底を続けなければならない。 				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (私立幼稚園・認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します
 (2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	親和幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・外部業者による搬入給食で、卵、牛乳、エビカニの除去食・及び代替食を提供している。 ・園の畑でピーマン・なす・玉ねぎ・トマト・人参・じゃがいも・さつまいも・おくら・大根を栽培し、子ども達と一緒に水やりをしながら成長を観察した。植えた玉ねぎや大根を子ども達と収穫した。 ・アレルギー表を作成して全職員で情報共有した。 ・三田市の特産「たんくろう」枝豆のさやもぎ体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達で植えたり水やりをして育てた野菜を収穫することで、食物に興味関心を持つことが出来た。 ・年長児はデイキャンプにて収穫した大根を使ったスープを食べ、興味関心を持つことが出来た。 ・アレルギー表を作成して全職員で情報共有し、誤配・誤食のないように連携を図った。 ・地域の食べ物について知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の育っていく過程などに教師自ら関心を持ち、害虫や手入れの具合で野菜や植物の育ち方に気付いたり出来るように心掛けたい。 ・子ども達にも野菜の育ちにもっと興味を持っていけるような援助をしていきたい。 ・アレルギー対応については、職員全体で機会あるごとに再確認をしていくようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児・職員が共に学び合えるような環境を工夫していきたい。 ・アレルギーについては学んでいく必要を感じているので改めて研修会を計画していきたい。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (私立幼稚園・認定こども園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
69	地域子育てステーション事業	就学前の子どもとその保護者	子育てに対する豊富なノウハウ・経験をもつ地域資源である保育所・幼稚園・認定こども園が子育て支援事業を実施する。●実施場所 保育所・認定こども園・私立幼稚園	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂第一幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやか広場の開設 ・毎月1回の園庭開放。 ・室内遊びについては、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業として定着しており、毎回参加される方が増えてきた。 ・また、保護者同士の情報交換の場となっている。 ・園児の兄弟関係の参加も多く目立つ。 ・園に来ることに慣れているため、入園後慣れるのが早い。 ・園庭開放のみにしたので、園内の様子が分かりづらい、とのご意見を頂いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の空きスペースに限りがある。 ・入園前に育児相談をされる方がいた。いつでも対応できる受け入れ態勢や、広報に努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談ではなくても、保護者同士または保育教諭といっしょに子育てについてや世間話等、気兼ねなく交流ができるような工夫をしていきたい。(感染状況にもよるが)
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂中央幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ○あいあいルーム ・年25回程度、午前10時から13時まで実施した。 参加人数総数は197人だった。 4月～8月は親子、9月～3月は子ども対象とした。 ○すこやか広場 ・毎月1回、15:00～16:00の時間帯で、親子で参加し季節の遊びや製作、運動遊びなどを行った。 ○園庭開放 ・毎月1回、15:00～16:00の時間帯で、親子で参加し園庭で自由に遊んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数は増加傾向である。 ・何度か参加されることで子供同士、保護者同士のつながりができているように思われた。 ・あいあいルームは電話で申し込みをとるようになり、優先順位がわかりやすいので、当落がつけやすいが、入会できなかった人に対するの救済活動も検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいあいルームは毎年好評の子育て支援事業であるが、人数が多くなると細かな対応ができなかった。 そのため、昨年から人数を減らして対応したところ、子どもには細かな対応、保護者には親身な相談を行うことができた。 ・すこやか広場では、年齢差にばらつきがあり、内容によっては参加しにくいものもあった。特に製作では低年齢児は参加できず、保護者が製作にあたる姿が見られた。 ・予約制でないため、人数の把握ができず職員の配置が急に変更になったり、準備物に不足があった。 ・園庭開放はコロナ禍のため開催できない日があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報や園のおたよりで日程を知らせる際に、対象年齢を設けることで年齢にあった遊びを楽しめるようにして参加者が参加方法が分かりやすくなった。 ・参加人数把握のために、前日までの予約制にする。(すこやか広場のみ) ・園庭開放は複数日を設ける。 ・土曜日の園庭開放に訪れる人が多くなったので、遊具や安全点検を事前に行っておく。 ・コロナ対応で中止する際は早めに連絡する。 ・来年度からあいあいルームは申し込みを増やし、1回ごとに参加者を募る形とする。申し込みはネットで申し込むスタイルを取り入れる。
				ふじ幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児未就園児クラス ※満3歳児入園手続き完了者対象 (月～金 9時～11時20分) ・1・2歳児未就園児親子クラス (木曜日実施 月2～3回) ※まん延防止等重点措置の期間は開催できず 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に園の様子や取り組みを知っていただくことができる。 ・保護者同士の情報交換や友達作りの場にもなっている。 ・未就園児クラスに通うことにより、3歳児クラス入園後スムーズに生活することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠方から参加される方が増えているため、駐車場の確保の問題が生じている。 ・コロナ禍での感染予防対策。 ・満3歳児クラスへの入園希望が主流となり、参加者が減少している。対象年齢の変更を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催の日程調節。 ・近隣有料駐車場を利用。
				認定こども園 三田あさひ幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回、親子登園日を設け、子どもにとって楽しい保育、保護者にとっては子育てを語る時間、また園職員との子育て相談を実施した。 ・保護者にとっても園の雰囲気や保育方針を見て感じる事が出来、入園につながる事となりつつある。 ・親子登園のクラスを設けているが、それ以外にも地域に対しての子育て支援事業(子育て相談)を行っている。 ・コロナ禍で未就学や幼い子どもを集団に入れることに躊躇する保護者が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数は増加傾向である。 ・参加された保護者からは高い評価を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専用の保育室の必要性がある。 ・子育て経験のある職員を配置しなければいけない。 ・限られた幼稚園の施設を利用するので、園の保育との調整が困難である。 ・働く保護者の増加により、母子関係の希薄さを感じる。 ・園の考えるコロナの対策を保護者に徹底するまでに時間を要した。そして自粛される方も多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が減ってきているので、今一度事業の目的と参加家庭募集の方法と時期を考えたい。
認定こども園 三田さち幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 2・3歳の未就園児の親子対象のプログラム ・「親子であそびましよう」を月1回第2水曜13時半から実施 (母の日プレゼントやクリスマスリース作り等の制作・リズム遊び・運動遊び・絵本の読み聞かせ・お正月遊び・エプロンシアター等) ・「さくらんぼクラス」月1回第3水曜10時より実施 (製作・親子パン作り・運動遊び・お店屋さんごっこ・保護者同士の交流等) ※製作では親子でおひなさまや水遊びのおもちゃ作り、ご家庭でも楽しんでいるようである。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で緊急事態宣言が発令され、中止にせざるを得ないことが多く、開催日数が減りましたが、開催時には感染対策をしっかりと行いました。「親子であそびましよう」は、午後に行っているため在園されている兄弟も参加することがあり、幅広い年齢で楽しめるような内容にしている。 小さなお子様連れの方には下の子を預かったり、布団を用意するなどして楽しんでいただいている。保護者同士のコミュニケーションが取れるような機会を設けているため、参加希望者は増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「親子であそびましよう」・「さくらんぼクラス」では、どちらも参加される方も多く、絵本や製作やエプロンシアターなど同じものや似たようなものにならないようにする必要がある。 換気をこまめに行いウィルスなどの感染予防に努めるもことに労力が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染拡大防止に引き続き取り組む必要があり、検温・アルコール消毒などの徹底を行う。 親子やさくらんぼクラス用の絵本棚やおもちゃを用意し、1歳の子も安全に楽しんでもらえるように、色々な場面を想定し配慮して実施する。 「親子であそびましよう」・「さくらんぼクラス」用のクレヨンやのり、ハサミを20名分用意し、自由に製作を楽しんでもらう。 使用後の消毒も徹底する。 				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (私立幼稚園・認定こども園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
69	地域子育てステーション事業	就学前の子どもとその保護者	子育てに対する豊富なノウハウ・経験をもつ地域資源である保育所・幼稚園・認定こども園が子育て支援事業を実施する。●実施場所 保育所・認定こども園・私立幼稚園	三田つつじが丘認定こども園	・SUNSUNキッズ(未就園児教室)の実施 ・子育て支援日の設営	・入園前に親子又は、子どものみで幼稚園に来ること で親子ともども慣れることが出来るので、喜ばれる。	・感染症対策などで、計画が立てづらかったり、 計画していても実施できないものもあった。	・家庭ではできない遊び、環境の提供を心がける。 ・感染症対策をしながら実施できる方法を工夫する
				三田けやき台認定こども園	○親子登園クラス (2月中旬に申込みした方) ・1歳児親子登園 年間約20回程度(木曜日) ・2歳児親子登園 年間20回程度(木曜日) ・募集は、1月に在園児通して発信。2月中旬受付、5月開講 ・保育経験豊富な職員、子育て経験豊富な職員が担当し、親子の触れ合い、子どもの触れ合い、子育て相談、情報交換の場を提供しながら行った。	例年、入園前に、親子又は、子どものみで幼稚園に来ること で、親子共々、慣れる事が出来るので喜ばれる。 ・家庭では出来ない色々な遊びを体験できる(パラバルーン・絵の具遊びなど)ので、喜ばれる。	例年、幼稚園の行事との兼ね合いの場所の確保に困っている。	例年、家庭では出来ない遊びの提供が出来るように 様々な物的環境を整える必要がある。
				認定こども園 やよい幼稚園	○1歳児親子登園クラス(火曜日)と2歳児親子登園クラス(木曜日)を月2回開催し、実施日以外の火曜日、木曜日職員を配置して園庭を開放している。 ○『やよいっ子広場』毎週土曜日の午前中、園庭開放を実施 ・地域の未就園児親子、在園児、小学生(コロナ禍で兄弟関係のみ) 遊び場の提供 ・園講師の陶芸教室・英語であそぼう・運動あそび・書初め体験は実施した。 ・未就園児保護者に子育てや幼稚園に関する相談実施 ○印刷物、ホームページ、ようちえんネットで広報している。	・在園児は勿論のこと、未就園児親子の利用が多い。 ・経験豊富な年配職員が毎回担当し、継続しての子 育て相談を喜ばれる。 ・コロナ禍で多世代・異年齢交流の場の提供が困難であ った。未就園児親子には、遊び場の提供と幼稚園 での色々な体験をして喜ばれた。(陶芸教室や親子で 折り紙、絵本の読み聞かせ等) ・新たに室内演奏楽団の方に来ていただく事が出来、 クリスマス時で保護者の方に喜ばれた。	・駐車場の確保 ・多世代・異年齢交流の場の提供がコロナ禍で 制限された。	・子どもがより安全に遊べるように門の施錠の徹底
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂学園 幼稚園	○あいあいルーム 満3歳以上の未就園児の体験遊びコース月3~4回実施 * 緊急事態宣言やまん延防止措置の期間は中止 または人数制限 ○すこやか広場 毎月1回15:00~16:00 職員と未就園児親子で歌や、ダンス、製作、読み聞かせを楽しむ。 ○園庭開放 毎月1回15:00~16:00 園庭で自由に遊ぶ。	・参加人数は徐々に増えた。 ・保護者同士の交流の場になった。 ・なるべく室内で過ごす時間を減らし密にならないように にした。園庭で遊ぶ時間を増やした。 ・子育て相談に来られる人もあり、良い機会となった。	・低年齢児参加が増え、参加された未就園児の 年齢や、様子によって内容を急遽変更しなけれ ばならないことが多々あった。 ・マスクができない子どもたちの参加になるの で、密を避けるように工夫はするが、難しい。	・遊びのコーナー作り等、年齢にあわせてできるよ うに、準備をする。
				親和幼稚園	・毎月1回の「なかよしクラブ」の実施。 ・参加者の方に子育てや幼稚園に関する相談にも随時応じている。 ・希望制で10:00~11:00自由参観の機会を作っている。 ・キンダーカウンセラーを活用し、子育て相談の実施	・コロナ禍での取り組みだったので、1回15組限定で 行い、丁寧に関わる事が出来、衛生、安全面も配慮 出来た。回数は予定より減少した。 ・子育て相談は2年目になり希望者が増えてきた。	・安全面の確保 ・広報の方法。	・園庭開放後等に子育て相談に応じる時間の確保。 ・未就園児、地域への発信

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (私立幼稚園・認定こども園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

2-1必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1)子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
70	園庭・園内開放	就学前の子どもとその保護者	在宅の子育て家庭に安全な遊び場や交流の機会を提供する。 ●実施場所 保育所・市立幼稚園・認定こども園・私立幼稚園	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂第一 幼稚園	・毎月のすこやか広場の開催 2～4回程度…園庭解放	・定期的に開催する予定を組んでいたが、感染拡大により、取り止めた期間がしばらくあった。 ・保護者の方向士が育児の悩みや入園に関する相談をし合う交流の場となっている。	・駐車場の空きスペースに限りがある。 ・雨天時には園庭開放が中止になるが、知らせる手段がないのが問題である。	・保育センター利用児も大勢いる中で危険が伴うこともある。保育センター児の戸外遊びの時間を調整することで改善できた。
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂中央 幼稚園	○すこやか広場 ・毎月1回、15:00～16:00の時間帯で、親子で参加し季節の遊びや製作、運動遊びなどを行う。 ○園庭開放 ・毎月1回、15:00～16:00の時間帯で、親子で参加し園庭で自由に遊ぶ。 ※コロナウイルス感染防止時期は開催を控えた。	・参加人数はコロナ対応のため、激減した。 ・土曜日の利用者は増えた。地域の方が多いが、大きな公園より園児に適した遊具が多いのが利点のようであった。	・すこやか広場では、年齢差にばらつきがあり、内容によっては参加しにくいものもあった。特に製作では低年齢児は参加が少なかった。突然の体調不良の場合は、コロナの感染防止とからむので、参加する保護者の意識が欠席を決断する方が多くなったと思う。 ・予約制でないため、人数の把握ができず職員の配置が急に変更になったり、準備物に不足がでたりした。 ・園庭開放は、天候によっては開催できない日があった。	・広報や園のおたよりで日程を知らせる際に、対象年齢を設けることで年齢にあった遊びを楽しめるようにする。 ・参加人数把握のために、前日までの予約制にする。(すこやか広場のみ) ・園庭開放日複数日設けることで都合の良い日に参加しやすいようにする。 ・コロナ禍での対応を検討する。
				ふじ幼稚園	・月1回のすこやか広場、また未就園児クラス終了後、参加登録者に対して、園庭開放を行っている。	・安心できる場で、子どもたちは存分に遊びを楽しんでいる。また保護者同士の親睦や情報交換の場となっている。 ・コロナ禍にあり、実施を見合わせる期間があったり、参加人数も例年より減少している。しかし、参加人数が少ないからこそ、未就園児や保護者の方とのコミュニケーションは取りやすいという利点もあった。	・駐車場の確保 ・在園児の園庭利用時間との調整	・保護者の方へ利用時のルールの伝達をしっかりと行い協力をいただく。 ・読み聞かせをプログラムに入れたところ、好評であった。今後、新たな企画も考えていく。
				認定こども園 三田あさひ幼 稚園	・在園児のきょうだい関係やその友達が来園し、思い思いに園庭で交流している。 ・コロナ禍で子どもたちのかかわりが希薄化すること、公園でのびのび過ごせない事ことを勘案し、在園児の園庭開放は継続した。 ・夏の晴天下にマスク着用で園庭で遊ぶことは熱中症の恐れや呼吸がしにくいことが非常に心配であり、幼稚園の園庭ではマスクを外しても善いことにしていたが、国基準の適切な指示・指導がないことが判断に困った。	・保護者同士が仲良くなることで情報交換や育児についての話などがしやすい。 ・保護者間で話が弾み、子どもを見ていない為に子どものトラブルやケガが増えている。	・在園児の保育活動を最優先すべきなので、時間の調整が必要。 ・園庭にはそれぞれの遊具や玩具の使用上の約束や注意点があり、一般の保護者への伝達の難しさ。	・園庭開放時の怪我が例年増加傾向にあり、保護者により子どもの安全を意識づけていく必要がある。 ・園庭を地域に解放し、コロナ禍における巣ごもりを解消し、地域の子育てに対応していきたい。
認定こども園 三田さち幼 稚園	月1回第2土曜日の園庭開放 (イベントとして、すいか割りやシャボン玉遊び・水遊び等も実施) 親子遊び教室の実施	コロナ禍の中、安全に参加してもらえるように、検温・消毒に協力いただく。 シャボン玉遊び・水遊び等では、広い園庭を活用し家庭ではなかなかできないような楽しみ方を心がけている。 また、初めて来園された親子の方が入りやすいような雰囲気づくりを心がけている。 園庭開放に来られた方に未就園児向けの「親子であそびましょう」・「さくらんぼクラス」の案内をして、参加を促している。	参加の保護者同士が交流できるよう、声をかける。また、1人目のお子さまをお持ちの保護者には育児の悩みなど相談会をコロナ禍で方法の検討が必要。	園庭開放をしていることを多くの方により知ってもらうためにいろいろなところ(SNSの活用含む)案内を増やす必要である。 密をさけるための配慮も行う。 消毒液の設置。おもちゃの消毒など実施。				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (私立幼稚園・認定こども園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

2-1必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1)子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
70	園庭・園内開放	就学前の子どもとその保護者	在宅の子育て家庭に安全な遊び場や交流の機会を提供する。 ●実施場所 保育所・市立幼稚園・認定こども園・私立幼稚園	三田つつじが丘認定こども園	・園庭開放5回のうち1回は親子ふれあい運動会のような内容を計画した。 ・オープンクラスを学年別に日時を決めて計画した。またオープンクラスとは別に個別の園見学会も計画した。	・一回の来園人数を最少人数に制限し、そのぶん沢山の方に来てもらえるよう、日程の調整をした。 ・オープンクラスより、個別の園見学会に参加される方が多く、コロナ禍での開催方法を考える必要がある。	・感染症対策などで、計画が立てづらかったり、計画していても実施できないものもあった。	・家庭ではできない遊び、環境の提供を心がける。 ・感染症対策をしながら実施できる方法を工夫する
				三田けやき台認定こども園	広報としてプリントや看板、HPを利用し、例年は、1回目はオープンクラスとし2歳児・3歳児&5歳児の保育の発表、親子体操を企画し、2回目は園庭開放とし、コーナー遊び、親子体操など、家庭では出来ない遊びを提供した。3回目はSUNSUNキッズ運動会とし、未就園児SUNSUNキッズ(園独自の活動年間24回)の運動会に一般の方も参加を募り、幼稚園での生活を味わい、観覧して頂く機会を提供した。実施:幼稚園	例年は、コーナー遊びでは家庭では出来ない遊びを提供したり、沢山の保育士と関わり、喜んで頂けた。子育て中の親子の出会いをきっかけ作りとなり、喜ばれた。	例年、駐車場の確保が難しい。	・環境構成に留意する。
				認定こども園 やよい幼稚園	○『やよいっ子広場』毎週土曜日の午前中、園庭開放を実施。 ・地域の未就園児親子、在園児、小学生(兄弟のみ)に遊び場の提供。 ・園講師の陶芸教室・英語であそぼう・運動あそび・書初め体験は実施した。 ・地域の方による“親子であそぼう!”と題して、折り紙教室、木工クラフトを開催してもらった。 ・未就園児保護者に子育てや幼稚園に関する相談も実施。 ○印刷物、ホームページ、ようちえんネットで広報している。	・コロナ禍、遊び場の提供を喜ばれた。(特に未就園児親子) ・経験豊富な年配職員が毎回担当し、継続しての子育て相談を喜ばれる。 ・小学生(在園児兄弟)も含め、陶芸教室の体験ができ、幼稚園の窯で焼き完成した作品ができるので喜ばれる。	・駐車場の確保 ・今年度は、ボランティアの参加を中止した(大学生のサークル、地域の方の街頭紙芝居・絵本の読み聞かせ・折り紙教室・木工教室等)来年度は実施したい。	・子どもがより安全に遊べるように門の施錠の徹底する。
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂学園 幼稚園	○すこやか広場 毎月1回15:00~16:00 職員と未就園児親子で歌や、ダンス、製作、読み聞かせを楽しむ。 ○園庭開放 毎月1回15:00~16:00 園庭で自由に遊ぶ。	・参加人数は徐々に増えた。 ・保護者同士の交流の場になった。 ・なるべく室内で過ごす時間を減らし蜜にならないようにした。園庭で遊ぶ時間を増やした。 ・子育て相談に来られる人もあり、良い機会となった。	・低年齢児参加が増え、参加された未就園児の年齢や、様子によって内容を急遽変更しなければならぬことが多々あった。 ・マスクができない子どもたちの参加になるので、蜜を避けるように工夫はするが、難しい。	・遊びのコーナー作り等、年齢にあわせてできるように、準備をする。
				親和幼稚園	○月に1回「わくわく幼稚園」の開催時に園内・園庭を開放実施している。 ・在園児の降園後、14時30分から17時まで。同年齢の子どもと一緒に遊んだり、季節に応じた遊びを楽しめるように心掛けている。 ・初めて保護者と離れて園で過ごす子どもがほとんどなので、保護者も子どもも安心して過ごせるように配慮するようにしている。	・わくわく幼稚園に参加することで、園での雰囲気慣れたり、保育者とじっくり関わりを持つことで安心して生活する姿が見られた。 ・園庭では、在園児と関わって遊ぶことを楽しむ姿も見られた。在園児も未就園児のお世話などをする様子も見られた。	・今年度もコロナ禍の影響もあり、昨年度よりも実施回数が少なかったこともあり、利用者が少なかった。今後地域の方々ももっと気軽に利用できるような、コロナ対策も含めたお知らせの仕方などを工夫し、周知していきたい。	・今年度は、在園児と関わる時間が少なかったため、もう少し在園児と関わる時間を設けることで集団生活に慣れたり、利用者が少ない分同年代の子どもと関わる楽しさを感じられたりできるようにしていきたい。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします
(1)就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園・認定こども園・保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を行うため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	三田保育所	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招いての所内保育研究会(年2回) 認可保育園との情報交換 人権研修(年1回)・新任研修 保幼小の連携及び交流会 統合保育委員会(年2回)、課題サポート(年2回)、巡回相談等の利用 保育士部会、給食部会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で、感染症予防をしながら外部講師招聘研修を実施し、職員のスキルアップや資質向上に努めることができた。 統合保育委員会や課題サポート研修等は、支援方法について研修での学びを職員で共通理解することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部、内部研修を問わず、保育時間中には参加できる人数に限られる。 研修報告を行う時間も限られるため、研修レポート等を活用し、情報共有を図っているが、伝えきれない面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用したリモート研修等への参加を今後検討していきたい。 学んできたことを伝え合える場を設け、研修が保育所全体の学びにつながるようにする必要がある。
				こぼと保育園	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修を毎月実施 幼児・乳児別に研修会を実施 外部研修(オンライン等含む)に参加 保育士キャリアアップ研修に参加 三人考就学前部会に参加 キリスト教保育関連研修に参加 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で思う研修に参加出来ずにいた。 外部研修に参加した内容を共通理解する機会(時間)が思うように取れない。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修に参加できる機会を作っていきたい。 リモート研修も良かったが実際に他園を見学したり、話し合う機会がなかったことが残念に思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修の内容を計画的に考え充実させていきたい。
				ゆかりフレンズ	<ul style="list-style-type: none"> 新任研修 オンライン研修やZoom研修 キャリアアップ研修 リスクマネジメント研修 救急対応について 特別支援研修 保育リーダー研修 保育サポート研修 園内研修など 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため外部への研修はできなかったが、オンライン研修やZoom研修を活用し、研修を受ける機会を増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育時間に研修があるため、人数に限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修内容を他の職員に周知することが難しかったので、工夫をする。
				光の子保育園	<ul style="list-style-type: none"> 園内に外部講師を招いて保育の観察点にそって分析して学んだ。 幼児クラスの保育を観察して交流研修をした。 保育サポートや巡回相談を利用して、保育のアドバイスをたくさんもらった。 Zoomで研修に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの感染状況を見ながら行うことができ、共通認識できることが増えた。 互いの保育を見ることで気付きが多く、疑問等聞き合うことで学びが深まった。 Zoom研修に参加することで、子育て中の保育士が家庭等でも学ぶことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 園外の研修等は保育時間があるので職員の参加に限られてしまう。 今年度もコロナ禍のため、他園を見学するや直接研修を受け話し合う機会がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 状況に合わせて研修に参加出来るように、環境、体制を整えていく。 園内で互いの保育を見ることで自分を振り返るようにする。
				あいの保育園	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の為、外部研修は中止し、オンライン研修に参加した。 リフレッシュ研修(ヨガ、アロマオイル作り)を実施 人権学習(DVD視聴、グループ討議) よりよい環境作り(外部講師) SDGsについて(法人研修) 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で、職員の精神的な疲労も感じられた為、気持ちがリフレッシュできる研修を企画し職員からも楽しかった、リフレッシュできたとの声を聞くことができた。 オンライン研修に参加することで、移動時間等が無いため、研修回数を多く持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン研修を受講するための場所の確保が難しかった。 土曜日の研修開催は、保育もある為同じ内容の研修を3回に分けて行わないと全員参加できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fi環境が不安定な部屋があるので、改善したい。
				若草幼稚舎	<ul style="list-style-type: none"> キャリアアップ研修への参加 zoomでの研修への参加 療育支援保育士による園内研修の実施 心肺蘇生、AEDについての園内研修の実施 保育について、テーマを決めての意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が自ら学びたい研修は研修費と交通費を園が全額負担し、職員一人ひとりの学びを応援した。また、希望する日に研修が受けられるようにした。 療育支援保育士による研修ではより専門的な知識を学ぶことができた。 意見交換の場においてはお互いが成長し合えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 園外の研修については感染予防対策を行い参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修の年間計画を作成する。 日常の些細なヒヤリハットについて、さらに職員間で共有できるようにする。 園外の研修が実施されるので、希望の研修に参加する。
				あさひ若草ナースリー	<ul style="list-style-type: none"> 職員が自ら学びたい研修(キャリアアップを含む)へ参加 園長が必要と判断した場合は、対象職員へ参加を命じた 園内研修では、オンライン研修(保育者の真の役割について・感覚統合)や宝塚健康増進課主催の看護師ミニ講座(誤飲研修)を実施 ボール遊びを踏まえ、園内で心肺蘇生研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学びたい研修に参加できるよう、研修の案内を全職員に周知し、サポートを行った。 園内研修で学びたいことを職員に聞き、計画を立てたことで、意欲をもって学ぶことができた。 園内研修は、同じ内容を2日間行うことで全職員が参加し、学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も現場で必要な学びや学びたい研修を増やしていけるよう、職員の声に耳を傾け計画を立てていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育の充実をさらに図るため、改善点を協議し、具体化していく
				キッズポート保育園	<ul style="list-style-type: none"> 附属園研修 保育課題サポート研修 処遇改善キャリアアップ研修 (保護者支援・障害児保育・乳児保育・マネジメント・食物アレルギー受講) 園内研修(乳児保育と環境) 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の為、外部研修への参加を控えた為、学びの機会が減ってしまったことが残念であった。しかしキャリアアップ研修や他のリモートでの研修には参加し、資質向上に努めることができた。 園内研修では中堅職員達が自発的に乳児クラスでの研修を行いたいと申し出があり実施をした。学びを共有し全体の意識や保育力向上に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> まだまだ続くコロナ禍において、大人数が集まることへの不安があり、研修参加に消極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに、本人の希望する内容の聞き取りを行っているが、コロナ禍で思うように参加できないのが現状である。参加する職員が安心して受講できる、リモートの研修等の機会を提案したり、園内研修を充実させ、学びへと繋げたい。
				よこやま保育園	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修、年4回。 子どもの発達についての研修 キャリアアップ研修・運動遊び 食育研修・特別支援研修・音楽研修 新任研修・主任研修 アレルギー対応研修・睦保会への研修 保護者対応について・救急対応について 保護者対応 	<ul style="list-style-type: none"> 共通理解しながら保育の質を高めることができた。保育で疑問に感じることの話し合いなど、キャリアアップ研修など必要な研修を受けることができた。オンラインでの研修が増えたので、職員が進んで受けることができて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修の内容を深めていくと、時間が足りないことがある。 時間外での園内研修が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修だけでは時間が足りないため、外部の研修などで保育の質を高められる場にしたい。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします

(1)就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組み内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園・認定こども園・保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を図るため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	さんだのもり保育園	<ul style="list-style-type: none"> キャリアアップ研修 人権研修 園内研修(救命救急・消防訓練・質の向上・わらべ歌・ヒヤリハット・公開保育) 法人研修(新人保育士・中堅保育士・ベテラン保育士・クラス担当保育士・主任、副主任研修) 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で園外の研修には積極的に参加することが出来なかったが法人での研修をzoom開催にすることで学びの場を持つことができた。 職員会議内に園内研修を実施することで、全職員が参加でき、保育士の質の向上に繋がられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修は保育士の勤務体制により、参加が難しい時があった。 コロナ禍のため、他園との公開保育研修や見学を実施することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修を計画的に実施する。 法人内研修の充実を図る。 参加職員の学びを職員間で共有する機会を作る。
				三田虹の子保育園	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修 <ul style="list-style-type: none"> ビデオ保育検討会 クラス別保育検討会 テーマ別研修(特別支援・食育・保護者子育て支援・わらべうた) 特別支援研修 人権研修 虐待研修 わらべうた研修 園外研修 <ul style="list-style-type: none"> 新任研修 主任研修 キャリアアップ研修 特別支援研修 保護者子育て支援研修 乳児保育研修 人権研修 虐待研修 小学校との接続研修 実習担当者育成研修 その他 兵庫県、三田市主催の各種研修 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、多くの研修がオンラインとなったが、研修会場に向く時間が削減でき、積極的に多くの研修を受講できた事は評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でのディスカッションの持ち方や実践的な研修の難しさが挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加人数を絞りながら、オンライン研修での成果を持ち寄りディスカッションする場を設け、職員の質の向上につなげていくべきだと考える。
				こぐまプリスクール三田園	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修 <ul style="list-style-type: none"> 電話対応とマナー リスクマネジメント 人権と虐待 感情のコントロールは苦手な子への支援 0歳児交流会 1歳児交流会 2歳児交流会 主任交流会 社員による研修(絵本について、保護者対応、気になるお子さんへの支援等) 園外研修 <ul style="list-style-type: none"> キャリアアップ研修 食育研修 	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修では、すべてリモートで行った。また、令和3年度より社員が講師となり30分間のミニ研修を導入し、アウトプットによるスキル向上を目指した。社員による研修では、伝える側の難しさを感じていたが、感想を受け取ることでより自信にもつながった。今後も経験を重ねていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> リモートに対しまだ不慣れもあり、音声トラブルやグループディスカッションなどうまく使いこなせていないところもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染リスク等からすべてリモートになったが、落ち着いた時期に年に1度は対面での実施を行いたい。(他園との交流をより深めるため)
				やよいキッズ	<ul style="list-style-type: none"> 園外研修 <ul style="list-style-type: none"> キャリアアップ研修 保育課題サポート研修 防火講習、消火訓練研修、(ビルの合同消防訓練、年2回) 園内研修(安全管理、保健衛生、食育) 	<ul style="list-style-type: none"> 研修報告の時間を取り、学んだことを職員間で共通理解することで日常保育に取り入れたり見直しを図り、保育の資質向上を心掛けた。 コロナ禍で園外研修の機会は少なかったが、課題サポート研修の録画を他の職員も観て学ぶことが出来て良かった。 日常の保育の中での課題を出し合い、園内研修の時間を充実させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修は保育時間中の事が多く参加しにくい。 日常の保育の中でスムーズに連携が取れるように、職員同士がお互いに問題提起できる機会を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> シフト調整をしながら外部研修にも積極的に参加できる様にする。 毎月定期的に行う職員会議の時間を利用し、更に職員の資質向上につながる園内研修を積極的に計画していく。
				ミルクたんぼ園	<ul style="list-style-type: none"> 自己研修計画、経験年数を考慮し年間計画作成 園内研修 <ul style="list-style-type: none"> 環境構成と遊び研修 音あそび研修 園外研修 <ul style="list-style-type: none"> キャリアアップ研修 保育課題サポート研修 保育学セミナー 園長研修 三田市主催研修 療育講座 子育て支援者研修 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続き、研修会に制限や中止が多く計画通りには進めることは困難だったが、中でも感染予防に努めながら可能な限り研修に参加、実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での研修は制限が多い。 職員数や勤務体制等により、希望通りの参加は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修復命書閲覧や研修報告会で全職員で研修内容を共有した。今後も知識、気づきの共有の機会をつくる。 個々の研修計画を活かした研修の機会を提供し職員同士が主体的に学びあう姿勢と環境をつくっていきたい。
				湊川短期大学附属ぼるとこども園	<ul style="list-style-type: none"> 園外研修 <ul style="list-style-type: none"> キャリアアップ研修 保育課題サポート研修 園内研修 <ul style="list-style-type: none"> 年齢別保育研修 	<ul style="list-style-type: none"> 園外・園内どちらの研修も人数制限等があり集うこともなかなか難しい中、今年度も研修のあり方や学びの仕方を模索した。 職員の意見の集約に努め、研修時間を短くする等した。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育担当制を軌道に乗せる為連携園のキッズポート保育園への研修を考えている為、その間の職員の体勢や勤務時間の調整が課題となる。 職員の学びの機会や資質向上の意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に園外研修へ参加できるようにしたり、身近な連携園のキッズポートへ研修に行けるよう調整する。
				けやきキッズガーデン	<ul style="list-style-type: none"> オンライン研修(AED講習、保育課題サポート研修、子ども療育講座) 園内研修(新任研修、マナー研修) 園外研修(保育士等キャリアアップ研修、保育内容合同研修会、歯科研修) 	<ul style="list-style-type: none"> 全員の職員が研修を受ける事が出来た。 研修会後、研修内容を全職員に伝える時間(フィードバック)を設け、そこから学ぶ事が出来た。 嘱託医である歯科医師より、研修を受ける機会を設け、職員の能力向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあり、オンライン研修の参加が増えたが、構造上個室が無いので集中するのが難しい。 参加費用が無料だと参加しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が受けたいと思う研修をなるべく受ける事が出来るように職員配置を考えていきたい。
				コスモチャイルド保育園三田園	<ul style="list-style-type: none"> キャリアアップ研修(乳児保育、保護者支援、マネジメント、食育アレルギー) Zoomにて参加 保育課題サポート(年2回) 園内研修 <ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハット検証 食育 不審者対応 各種マニュアルの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、園外研修への参加がほぼできなかった。 Zoomによる研修に参加することができ、研修内容を職員間で共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 園外研修の日程により職員の勤務体制が厳しい日もあった。 園内研修を行う際にも職員数が少ない為、会議に参加できる職員に限りがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修に参加できるよう、引き続き保育士の継続勤務ができるよう努める。 毎月行う給食職員会議の時間を利用し、職員の資質向上に繋げていく。 共通理解を基に園内研修を行う際にも、できる限り多くの職員が参加できるよう勤務調整を行う。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します
 (2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	三田保育所	<ul style="list-style-type: none"> 食育だよりの配布(月1回) アレルギー食、乳児食など個々に合わせた調理の提供 外部講師による味噌作り、4・5歳児による夏野菜の栽培 5歳児と調理師で食品栄養分類表(食育ボード)に分類提示 給食部会での管理栄養士による指導や認可保育園との情報交換 市内給食検討会(月1回)の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 食育だよりを通して子どもの活動や取り組みの様子を保護者に伝えたり、食育の推進を図ったりすることができた。 所内給食検討会でアレルギー食をはじめ給食内容について調理師と保育士の情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理師と子どもたちの交流が時間的にも持ちにくいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> クッキングについては内容や取り組み方を検討していく。 給食の出来るまでや栄養面について調理師等と実際に交流する中で学び、感謝の気持ちを抱いたり、食への興味や関心をもったりできる機会を持てるよう努めたい。
				こぼと保育園	<ul style="list-style-type: none"> 食育計画に基づき、正しい食事のあり方や望ましい食習慣の啓発、市内の農作物や食文化への関心を高め、食を通じて豊かな心の育成を図ると共に保育園における食育の推進を図る。自園において、多種類の野菜を栽培、収穫をする。園庭にはブドウ棚もある。 コロナ禍の中でできる範囲でのクッキング。 毎月給食だよりを発行。 アレルギー食・離乳食など個々に合わせた給食の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜栽培については、子どもたちも興味を持ち、知識も豊かになることなどから保護者にも好評。自らの手で育てることにより、苦手な野菜が食べられるようになったり、食に対する意欲が増す傾向が見られる。 クッキングを通して作る楽しさ、いつも作って下さる人への感謝が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 畑の水やりは毎朝幼児組の子どもと行ったが、草引きまでは暑い中なので中々子どもと出来ず、大変だった。 職員の野菜を栽培する知識。 クッキングの機会が減ってしまっているので出来る範囲での計画を考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 多く出来すぎて収穫しきれなかったので、栽培する数の見直しが必要。
				ゆうかりフレンズ	<ul style="list-style-type: none"> 季節の野菜を育て、成長過程を観察する。 クッキング(5歳児のみ、年2回) さやもぎ体験 5歳児に向けて、食品栄養分類表に分類提示 アレルギー食、離乳食など個々に合わせた調理の提供 食育だよりの配布 	<ul style="list-style-type: none"> 回数は限られたが、昨年ではできなかったクッキングを再開できた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため、予定していた体験型の食育活動が中止になってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも対応できる活動を考え、食に興味や関心が持てるように努める。
				光の子保育園	<ul style="list-style-type: none"> 夏野菜など子どもたちが作った野菜を給食に入れる。 給食講習会は計画しなかった。 アレルギーの指示書を2月に渡し、学年が変わるときに更新してもらった。 アレルギー除去の解除届を変更した。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが育てた野菜を給食に入れることで、苦手な野菜を食べたり、食べようとする姿が見られた。 解除届を医師の指示をもらい、保護者が家庭で食べて確認したことが分かるように書式を見直した。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で食育の実施が行えなかった。子どもたちの共通体験がへってしまう。 ガイドラインに沿って変更したが、実施することで不具合が生じることがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状に合わせた食育の取り組み方法を考える。 不具合を1つ1つ対応していく。
				あいの保育園	<ul style="list-style-type: none"> 食育ボードの活用 行事食の説明 クッキング(幼児) 給食室との交流 食事の様子を動画配信 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の方に食育についての取り組みを知ってもらうことが出来るように、動画や写真で様子を配信することができた。 コロナ禍の中でもできる内容に変更し取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培した物の食べ方(切り方、火を通すなど)に気を遣った。 クッキングの内容が偏ってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 黙食のルールが定着してきているが、楽しい食事の雰囲気大切にバランスをとりながら進めていきたい。
				若草幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ①食事の大切さやマナー ②明るく楽しい食事の雰囲気 ③ランチオンマットの制作 ④子ども達による配膳 ⑤行事にちなんだ献立内容 ⑥夏野菜やさつま芋の栽培 ⑦収穫した野菜を使ったクッキングや焼き芋パーティ ⑧お話にちなんだお料理:月1回 ⑨食体験:月1回(給食のお手伝い) ⑩カレークッキング(給食献立) ⑪もちつき大会 ⑫一人ひとりに合った離乳食や除去食対応の個別献立 ⑬お買い物やクッキング活動 	<ul style="list-style-type: none"> 旬や国産の食材、無添加や薄味にこだわった味つけを大切に献立内容 幼児クラスではランチオンマットを制作、また職員が個人マークや名前を刺繍した。特別な日にはランチオンマットを使いあたたかな家庭的な雰囲気を作っている。 各クラスが1年を通して、お手伝いやお買い物、クッキングを行うことができた。また行事食や食体験を通して「食」に興味、関心、経験を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 無農薬の農作物を使用したいが、地元の農作物が無農薬なのかわからない。 	
あさひ若草ナースリー	<ul style="list-style-type: none"> 食に興味・関心をもち、正しい食事のマナーを知る。 明るく楽しい食事の雰囲気 食材に触れ、五感で味わう体験 ものがたりメニューを通しての食体験 夏野菜やさつま芋の栽培と収穫を通して、食の関心を高める。 一人ひとりに合った離乳食と除去食対応の個別献立を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達と楽しみながら食体験ができた。 厨房と連携をもち、食の喜びを味わえる食育の取り組みを行った。 保護者の方に掲示写真や食だよりで食の大切さや喜びを伝え、共感できるよう努めた。 離乳食や除去食を安全に提供できるよう、厨房と職員で連携をもち、確認を徹底させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 更に家庭と連携をもち、保護者との会話を密にしなが、離乳食や食事が進められるようにしていく。 更なる食体験の新企画を増やす。 野菜栽培の知識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善点や発案の意見がだしやすい会議を工夫していく。 				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します
(2)乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	キッズポート保育園	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー児に対し、代替え食の提供や体調不良の園児に対し、消化の良いメニューに変更する等の対応を行った。 色々な季節の野菜を育て、旬を知る。(2~5歳児) 調理前の給食の食材を実際に見て、それがどのように調理されているか見たり、食べたりし、食への興味へと繋げる。 下ごしらえの手伝いをしたり、自分たちで育てた野菜を収穫し、調理して食することで、食への関心や興味を深め意識を高める。 食事の正しいマナーを知らせていく。 朝ご飯の重要性を伝え、早寝早起き朝ご飯の習慣をつけていく。 日々の給食で使われている食材(赤・黄・緑の食品群)を食することで、体の成長や発達にどんな働きがあるかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー児に除去食願いを提出してもらい、職員全員で情報を共有し、取り組むことにより適切な代替え食の提供ができた。 その日の給食に使う食材(野菜)を実際に手に取り、見たり匂ったり、また下ごしらえ(皮むき、切る等)を手伝うことで、より食べる事への意欲付けとなった。 野菜を育てることで、作り手への感謝の気持ちや、苦手なものも食べてみようとする意欲に繋がっている。 自分たちが作ったものを他クラスや先生に食べてもらい、作り手への感謝の気持ちを育てる。 こどもたちの活動の様子を動画配信やドキュメンテーション等で保護者にも伝え、親子で興味をもって食育に取り組む事が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー児については保護者との連携を密にとりながら、個別の対応を行っているが多種多様になってきており、次年度より完全除去へ変更を行う。 コロナ禍によりパーテーションの使用やおしゃべりを控えて食べることとなり、以前のように友だちと一緒に楽しく会話をしながら食べることは難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理、担任だけでなく職員全体でアレルギー児の把握を行うほか、調理～提供までにチェックを何重にも行うようにし、より安全に提供できるようにしていく。 食前や食後に給食内容について話す機会を設け、興味や関心が継続できるようにしながら、食べることの大切さや楽しさを引き続き伝えていきたい。
				よこやま保育園	<ul style="list-style-type: none"> 食物ガイドラインにもとづいて、アレルギー対応とする医師の診断書、保護者との連携を行い、個別で対応・配慮する。 離乳食は個々の発達に合わせて個別献立を作成、家庭とともに成長発達を援助する。 離乳食、アレルギー食対応については園長、主任、栄養士、調理師、担任、保護者と連携し提供する。 献立表を配布する。 2、3、4、5歳児のクッキングを行う。担任、栄養士、園長、主任が連携し、安全衛生面を配慮する。 食育たよりを年8回発行する。 2、3歳児の簡単なクッキングの経験ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者へ、離乳食の進め方や食材の進め方などの理解と連携 年齢に応じたクッキングの内容を給食会議で話し合い昨年度よりも多く2歳児のクッキングを実施することができた。 コロナ禍の中、密にならないように2チームにわかれて3・4、5歳児でクッキングを計画し、実施することができ楽しむことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られた場所での栽培を工夫し、ベランダでのプランターで野菜の種類を増やす。 職員の野菜を栽培する知識、経験 5歳児の給食当番(配膳)を経験させてあげることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単なクッキングを2歳児3歳児も行えるように年間計画を見直す。 園児と調理師の交流を深める。調理師と一緒にクッキングを行う機会を作っていく。 年長児の配膳活動について、新型コロナウイルス感染症対策しながら、どう何が取り組めるのか検討する。
				さんだのもり保育園	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー児には除去食、もしくは代替え食の提供(生活管理指導表の提出) 旬の野菜を給食に取り入れる。行事食の提供 法人内での給食会議を年4回開催 毎日の給食を写真提示し、保護者に知らせる プランター菜園での野菜作り(給食時に提供) お泊り保育でのクッキング(子どもが触れた食材は破棄) 	<ul style="list-style-type: none"> 誤食をすることなく安全に給食提供が出来た。 旬の食材に触れたり見たり、行事食を提供することで食への関心が深まり、楽しみながら食べ進める姿があった。 菜園活動を通して野菜への興味、関心が深まり、苦手な野菜も口にする子が増えた。 感染予防のため、地域の方との交流を兼ねた「田植え体験」は中止とした。 幼児クラスの黙食が定着した。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でクッキングの内容や方法の見直しが必要である。 プランター菜園で大量の野菜が収穫できたが、職員が栽培に対する知識を得ていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育たよりの充実を図る。
				三田虹の子保育園	<ul style="list-style-type: none"> 献立表の配布と共に、日々の献立食を展示し、給食たよりを通して旬の食べ物や調理方法、伝統的な行事食などを保護者に知らせる。 食物アレルギーに関しては生活管理指導表の提出と共に、完全除去とする。 離乳食は個々のペースを考慮しながら進める。 甘酒や手作りおやつを中心に、より安心安全な食の提供を行う。 野菜を栽培し、自ら調理し食することで、より身近な食べ物に関心をもち、命を頂く大切さに気付く機会をもつ。 給食の米をはじめ、栽培する野菜苗など地産物の利用を推進する。 梅仕事や餅つき等、季節を感じ伝統文化を知るような体験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 献立表や展示食を介して、親子で食に関する事柄に関心を寄せる姿が見受けられる。 自分達で栽培したり、調理することで、苦手な食材も食べてみようしたり、作物の生育にも関心がもてた。 地産地消によって、地元の農業の活性化に多少なりとも貢献できた。 園庭が2階でウッドデッキの為、プランター栽培しかできないが、四季を通して沢山の種類の野菜を栽培することができた。 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、地域のデイサービスとの交流の一環として芋掘りを行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、子ども達の収穫作業や調理体験などもかなり制約され、今後の課題とされる。 建物の構造上、プランターでの栽培に限られるが、引き続きできる範囲で様々な種類の作物を栽培していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止措置を講じながらも、食や季節の食物への関心が薄れない様に栄養士と保育者が連携し、より安全な食育体験を行う。 子ども達に身近な題材での食育指導を進めて行く。 地域との連携をより深め、交流の中で土いじりや畑仕事等が体験できるようすすめていく。
こぐまブリスクール三田園	<ul style="list-style-type: none"> なかよし献立 食育あそび ミニトマトとオクラとピーマンの栽培と収穫 防災食の提供 保護者との連携による食の共有 管理栄養士によるアレルギー児童と離乳食児童の定期的な聞き取り 姉妹園との給食会議 行事食 「食の提供・質の向上のためのチェックリスト」評価 給食風景、人気メニューのブログ配信 給食たよりででの情報提供 給食時の異年齢交流 戸外給食 インスタでの食の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 2歳児の食育あそびでは、五感を刺激し野菜への興味関心に繋がった。 野菜の栽培では園でのみならず、親子で成長を見守ったり、色が変わる様子などを楽しんでいた。 ブログやインスタでの人気メニューのレシピ配信は思いのほか、家庭でのより良い食に繋がった。園での食の状況等も保護者に情報提供できた。 戸外で給食を食べ、いつもと違う雰囲気を楽しみ味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ブログやインスタ配信は保護者も楽しみにしており、参考にしてているなどの声もあるが、内容等がワンパターンにならないよう、どんな情報が必要で好まれるのかなど、その辺も意識して配信していきたい。 食育あそびは出来ることが限られているが、その中でも毎回変化をつけて取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが食に興味を持ち、食べる事を楽しんでいるような取り組みを考えていきたい。 				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します
 (2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	やよいキッズ	<ul style="list-style-type: none"> 食育計画を基に家庭と協力し、規則正しい食事習慣の定着の推進(早寝・早起き・朝ごはん、正しい食事マナー) 園だより(給食室からの情報提供)、献立表、食育だよりの配布と掲示 家庭と連絡を密にとりながら個々の成長に合わせた離乳食の提供 給食ノートを通じて保護者と給食室が日々確認し、個々の状況に即したアレルギー対応食の提供 サツマイモやミニトマト・オクラの栽培と収穫体験 	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭と連絡を密にとることで、個々の状況にあった離乳食、アレルギー除去食を提供することが出来た。 給食担当職員が子どもたちの食事の様子を知り調理を工夫し提供することが出来た。 給食献立や食育だよりで食事に関する情報を提供し、規則正しい生活サイクルや朝食の大切さを伝え、安定した生活が送れるよう家庭と協力した。 食材に興味を持ち感謝の気持ちを持って食事をする事が出来た。 サツマイモやミニトマト・オクラなどの野菜の成長に興味を持って触れることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 離乳食やアレルギー食については、個々の成長段階に合わせた保護者との連携と誤食防止 給食室との綿密な連絡・報告。 給食担当職員と子どもたちや保護者との交流。 野菜の栽培についての職員の知識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事習慣の改善が難しいケースもあったが、保護者の悩みを具体的に解消できるような情報提供をしながら継続的に食生活の大切さを伝える。
				ミルクたんぽぽ園	<ul style="list-style-type: none"> 食育計画に基づき、望ましい食習慣の形成づくりに努める。 アレルギー児に対しては、食物アレルギーガイドラインに添って対応、代替食の提供等。また、保護者、医師、保育士、調理師等の連携を密に行う。 離乳食対応マニュアルを基として、個々の成長発達に合わせ保護者、担任、栄養士、調理師と連携して進める。 季節、伝統食、行事食を取り入れた献立および実施 給食実物展示 食材キャラクターで給食への興味関心の促しと偏食対応 トマト、ナスの栽培、収穫 1歳児、2歳児クッキング 毎月1回給食会議実施、食育だより発行 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の成長に応じた対応により楽しく進めることができた食材をキャラクター化することで、食材の名前や効用を知り給食への興味関心につながった。 クッキングや行事に調理師、栄養士が関わることにより園全体で子どもの成長を支えることができた。 給食だよりの発行により望ましい食習慣の啓発ができた。 コロナ禍ではあったが、給食試食会や参観を通して、子どもの様子や成長発達を知る機会となった。 クッキングや野菜の収穫を通して、食への関心につながり、楽しく食べる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 嚥下、咀嚼の対応 離乳食を進める上での保護者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 食育だより、園だよりや保護者とのコミュニケーション等を通して望ましい食生活、食習慣の情報提供をしていきたい。
				湊川短期大学附属ぼるとこども園	<ul style="list-style-type: none"> 食育計画に基づき、望ましい食習慣の形成に努める。 家庭と連携をとりながら、個々の成長に合わせた離乳食の提供。 食物アレルギーの個々への対応を細やかに行う。 簡単なクッキングや野菜の栽培等を取り入れ食への興味を持つようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の成長・発達に応じた対応を心がけ、偏食が少なくなってきた。 家庭との連携を密に行うことで離乳食から給食への移行がスムーズに行うことができた。 もちつきをして季節の行事を感じたり、連携園の場所を借りて野菜の栽培をし生長を感じる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の栽培では連携園までの距離がどうしてもあるので毎日の水やりや生長を感じることに無理が生じることもあるという所ではあるが、園での栽培は難しいので仕方がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も連携園で野菜栽培をしたい。 引き続き連携園の委託業者や栄養士との連携を深め、より良い給食・離乳食の提供に努める。
				けやきキッズガーデン	<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活の基本としての「食を営む力」を育む。 グループ統一の管理栄養士による献立作り。 郷土料理、外国料理、また季節の食材を取り入れる。 アレルギーに対応した給食を提供する。 季節に応じた食育を行った。 夏野菜スタンプ、黒大豆枝豆のさやもぎ体験、氷野菜、大豆を知ろう、寒天ゼリー遊び、ミックスジュース作りなど 	<ul style="list-style-type: none"> 「給食で日本の郷土料理巡り」と題し、毎月給食にて提供。 食育活動を行う際、食育活動計画、実施票を作成し、企画・プロセス・結果を評価し、今後の方向性を決定している。 お便りなどで、食育の取り組みを発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携施設からの給食搬入なので、実際に調理員が作っている所を見たり、調理員が、子ども達の食べている様子を見る事が出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 園バスを利用し、出来るだけ連携施設の調理室の見学などを行っていきたい。
コスモチャイルド保育園三田園	<ul style="list-style-type: none"> 食育計画を基に、望ましい食習慣の形成に努める。 食物アレルギーに関しては、年度毎に一度検査を受けてもらい、医師の指示書を基に見直しをし完全除去食とする。 アレルギーに対応した食事だが、アレルギーのない子どもにも全員が同じ物を提供し誤食に努める。 自園調理で給食の提供を行い、園長、保育士、管理栄養士、保護者と連絡を密に取り合いながら個々の食事を進めていく。 園便り、予定献立表の配布、献立の写真を掲示 ミニトマトの栽培、収穫 	<ul style="list-style-type: none"> 食事や様々なメニューに興味を持ってもらえるよう、調理師、管理栄養士も一緒に食育に取り組んだ。 アレルギー児の人数が減り、食材の数やメニューも増え充実した献立になった。 子どもたちの嗜好に合わせた献立の工夫をし提供することができた。 ミニトマトの栽培では、ベランダがなく日照り不足であり育たなかったが水やり、収穫をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー児の人数が減り、アレルギーに対しての意識が低くなっていた。 朝食の重要性を理解する。 ベランダ等の戸外がない為、野菜の栽培や収穫が難しいが室内で栽培できるものを試していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が増減しアレルギーについての共通理解ができていない。 朝食を食べてから登園できるよう、生活習慣の見直しもしてもらい園で機嫌よく過ごせるように、朝食の大切さを知らせていく(朝食を食べてない日の園での様子も知らせていく)。また朝食の内容についてもアドバイスを行い腹もちの良い物の提供をしてもらう。 				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

■基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
69	地域子育てステーション事業	就学前の子どもとその保護者	子育てに対する豊富なノウハウ・経験をもつ地域資源である保育所・幼稚園・認定こども園が子育て支援事業を実施する。●実施場所 保育所・認定こども園・私立幼稚園	三田保育所	人形劇、紙芝居読み聞かせ、水遊び、音楽遊び等を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染予防のため、事業を縮小し、在所児のみで行う。	コロナ禍の中で、感染症対策をしながら在所児対象に水遊び等を実施。	新型コロナウイルス感染症予防のため実施することが難しい。	感染症対策を行いながらの内容や時期、回数を検討する必要がある。
				こぼと保育園	・各月1～2回実施 ・内容：園庭開放、園行事(こども動物園・焼き芋パーティなど)への参加、夏期のプール開放、また季節感じられる製作物の時間を、来園する親子(子ども)に対して提供する。 ・コロナウイルス感染対策の為4回のみ実施となった。	・全体的に参加者は減っている。 ・育児相談に関しては、電話での利用はほぼない。 ・子育てステーションでの来園時、雑談形式で色々な相談を受ける事もある。	・年齢の開きがあった場合の制作物などの準備に手間取ることがある。それでも各年齢楽しんで取り組んでくれると嬉しく思う。 ・感染症対策の為中止となることも多かった。	・保育園に遊びに行きたい!と思ってもらえるような内容を考えていきたい。
				ゆうかりフレンズ	・子育てステーション事業(第2月曜日) ・すくすく子育て事業(第2木曜日) ・乳幼児子育て支援事業(毎水、土曜日) (実施内容) 夏の製作、ハロウィン製作、クリスマス製作など。 子育て相談を随時実施。	コロナ禍のため、中止にした時期があり、利用者が少なかった。	新型コロナウイルス感染症対策のため、実施することが難しかった。	コロナ禍でも実施できる方法を考えていく。 (例)ICTを用いた動画・LIVE配信
				光の子保育園	・緊急事態宣言や蔓延防止期間等は活動を停止した。 ・室内の活動は無し、園庭開放のみ。年間8回、延べ44人参加した。	・活動停止期間はあったが、昨年より多く開放できた。 ・天候により中止になったこともあった。 ・コロナ禍で利用できる場所が限られているので開放してくれることは有難いと言われていた。	・感染対策を考えながら何が出来るか考える。	・現状を維持して、外の活動として取り入れられることを考えていく。
				あいの保育園	・親子と一緒に製作等、親子での参加 ・保護者のリフレッシュを目的とした内容(子ども預かり) ・終了後にアンケートを実施	・感染対策として、参加人数を通常より減らして実施した ・一度参加された方が継続して参加して下さった。 ・参加者のアンケート結果を参考に次年度の内容検討に役立てた。	・コロナ禍の状況により、予定変更しなければならなかった。	・保育園のHPからの予約を定着させる。
				若草幼稚舎	・子育て支援事業「ぶどうの木」 ・園見学	・子育て支援事業「ぶどうの木」を毎月実施。 親子で楽しむ内容や園行事への参加、保護者のみ参加できる活動では託児を行った。離乳食、給食の試食会では栄養士へ、子育ての悩みについては担当保育士が相談を受けている。 ・園見学:35回開催、98家庭参加 希望される方に来園していただけた。	・ぶどうの木について、予約の電話が殺到する。	・電話回線の増設 ・電話以外の予約方法 ・電話番号を新規取得
				あさひ若草ナースリー	・園見学と離乳食の試食会を月1回実施	・園見学では、自園の温かな雰囲気を楽しべ、園のことを知る良い機会になったと高評価を受けた ・離乳食の相談や育児相談に応じることができた	・月により申込人数の差が見られたが定員数を超える申し込みがあった	・今後も取り組んでいきたい
				キッズポート保育園	・実施回数7回(9月、2月はコロナ感染症拡大防止の為に中止) ・実施内容 戸外あそび、しゃぼん玉あそび 夏の製作あそび(うちわ)、水あそび 運動あそび・冬の製作あそび(クリスマスツリー) 手形アート(成長の記録)、玩具の製作 ・広報活動、園舎前掲示板に案内掲示、子育て情報広場等で案内	・コロナウイルス感染症の為、戸外での活動を増やして実施した。 ・保育経験豊富なベテラン保育士が担当しており、様々な子育て相談に応じることができる。 ・保護者同士が子育てでの悩みを共有できる場として、リピーターも多い。少人数なので保護者同士も仲良くなりやすい。 ・保育園への入園を希望されている方には、必要に応じて園長、主任が対応し、質問等にお答えしている。	・開催する部屋がなく、ホールで行っているため、場所に限りがある。 ・同敷地に同附属の幼稚園が隣接しているため、駐車場に限りがある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、今後急な変更や中止になることもあり得る。	・場所や駐車場については、現状では改善は難しい。 ・参加者へ申し込み時に保護者のマスク着用、入口での消毒、発熱時は参加しない等を徹底していただくよう案内していく。 ・戸外での活動内容等で対応はしているものの、在園児保護者参加の行事も縮小している為、状況によっては中止せざるを得ない。
				よこやま保育園	子育てステーションー実施回数、月1回年12回 内容…園庭で遊ぼう。 保育園のおもちゃで遊ぼう。 親子で制作 体を動かして遊びを楽しもう。 手作り楽器遊び、親子でふれあい遊びなど 募集人数約5組	人と接する機会が減る中、保護者同士のコミュニケーションの場となったりゆったりとした雰囲気の中で遊びを楽しめた。 親子の触れ合いを大切にして取り組んでいきたい。	・感染症対策しながら、年齢を問わず参加してもらえる内容を考えていく。	新型コロナウイルス対策をしながら、内容を工夫することで、親子で喜んでもらえるよう準備する。 今後も取り組んでいく。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

■基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策	
69	地域子育てステーション事業	就学前の子どもとその保護者	子育てに対する豊富なノウハウ・経験をもつ地域資源である保育所・幼稚園・認定こども園が子育て支援事業を実施する。●実施場所 保育所・認定こども園・私立幼稚園	さんだのもり保育園	・スマイル広場(子育てステーション)の開催:月1回 ・子育て相談(随時) ・園内見学(随時) ・一時保育	・子育てステーションでは、季節によって催し物を工夫し、親子で楽しく参加したり、相談の場となるよう努めた。緊急事態宣言中は、家庭でも楽しめるように製作キットを用意し配布した。 ・コロナ禍の為、今年度も感染状況や緊急事態宣言等の発令を加味して実施した。地域の方々も参加を見合される方が多く、実施しても参加者が少なかった。 ・地域の感染状況を参考に一時保育の利用者を制限した。	・コロナ禍で在園児の活動を制限している中、子育てステーション実施に際して、在園児保護者から矛盾を感じるとの意見があった。 ・一時保育利用児童が在園児との混合保育時に感染リスクが上がる可能性がないとも言えない。 ・一時保育利用者に要支援児童・家庭がいる。	・感染状況を見ながらだが、ベビーマッサージも再開していきたい。	
				三田虹の子保育園	開催日数:0回 内容(計画)…園庭開放、わらべうた、水遊び、交通安全教室、親子で遊ぼう	※新型コロナウイルス感染に係る件のみならず、開催予定日にアデノウイルス・RSウイルス・手足口病等の感染症が次々と大流行した為、実質開催には至らなかった。	・新型コロナウイルス感染症終息の兆しが見えない中、園舎が大変狭く保育スペースにも余裕がない為、開催にあたり、密を避けての活動方法が課題となり、今後も更なる工夫が求められる。	左記のような事由はあるものの、子育て支援は継続していく必要がある。より参加してもらいやすくする為に人数や時間を分散するなどの工夫をおこなう。	
				こぐまプリスクール三田園	実施なし				
				やよいキッズ	実施無し				・自園での開催は設備的に難しいため、連携園での園庭開放等の情報提供をする。
				ミルクたんぼぼ園	・子育て相談を随時実施(方法:電話、メール) ・園内見学随時	昨年に引き続き、電話およびメールのみの実施			
				湊川短期大学附属ぼるとこども園	実施なし				
				けやきキッズガーデン	・未就園児活動として、年3回、実施予定だったが今年度は、新型コロナウイルスの影響で10月のみ実施。	・施設の関係で、親子5組の募集、園見学の親子が積極的に申込あり。	・施設的に部屋に区切りが無いので、活動を行っている間は、在園児が音の出る設定保育(体操、楽器遊びなど)が出来ず、保育が制限された。	・活動に参加する親子は、園の様子も見学したいという思いもあるので、戸外遊びではない設定保育を行う必要がある。	
				コスモチャイルド保育園三田園	・実施なし				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

■基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策	
70	園庭・園内開放	就学前の子どもとその保護者	在宅の子育て家庭に安全な遊び場や交流の機会を提供する。 ●実施場所 保育所・市立幼稚園・認定こども園・私立幼稚園	三田保育所	例年はホッとステーション事業の参加者に、園庭を開放しているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染予防のため実施はしていない。	未実施	新型コロナウイルス感染症予防のため実施をすることが難しい。	新型コロナウイルスの感染状況も踏まえながら、ホッとステーション事業も含め園庭開放を行えるか検討していきたい。	
				こばと保育園	・毎週月・水曜日13:00~16:00 ・内容:園庭を開放し、自由に好きな遊びを提供する。 ・地域子育てステーションと合わせて案内はしている。	・参加者は年間を通して多くない。 ・2021年度はコロナの影響か利用者はなかった。			
				ゆうかりフレンズ	・園庭開放(第2木曜日、第2、4土曜日) (内容) 園庭を開放し、自由に好きな遊びを提供したり、子育て相談をする。 ・子育ての場などに広報を貼り、ホームページにも掲載している。	コロナ禍のため、中止していた時期もあり、利用者がなかった。		コロナ禍でも安心して参加できる対策を考える。	
				光の子保育園	・緊急事態宣言や蔓延防止期間等は活動を停止した。 ・年間22回、延べ179人参加した。	・活動停止期間はあったが、昨年より多く開放できた。 ・利用者も活動が再開されることを心待ちにしていた。 ・コロナ禍で利用できる場所が限られているので開放してくれることは有難いと言われていた。	・感染対策を考えながら何が出来るか考える。	・現状を維持して、外の活動として取り入れられることを考えていく。	
				あいの保育園	・園庭開放 月~金(10:00~12:00)で実施 ※緊急事態宣言中は中止	・親子で園庭で遊んでもらうことができた。 ・友達同士で来られた。 ・遊んでいる中で、育児相談につながった。 ・なかよしひろばや一時預かりの参加につながった。	・園庭開放に来られる時間が遅いと、乳児クラスは保育室に入ってしまい、一緒に遊ぶことができずに残念そうだった。	・園内のイベント等などの発信を今後も継続して行っていく。	
				若草幼稚舎	・実施なし				
				あさひ若草ナースリー	実施なし				
				キッズポート保育園	開催回数 36回 ・広報活動 園舎前掲示板に案内掲示 子育て情報広場等で案内	・コロナウイルス感染症感染拡大により、例年より参加者も少なかった。	・開催日は出勤している職員数が少ない為、配置できる職員が不足しており、親子で自由に遊んでいただくだけになっている。 ・参加いただく保護者についてはマスク着用をお願いしていく。	・園庭で遊んでいるクラスの担任が、利用者にはできるだけ声をかけたり、園児とのあそびに誘ったりを心がける。 ・園のホームページにも感染症対策を呼びかけるとともに、子育て情報広場でもマスク着用等、参加する時の注意等(発熱時は参加しない)案内を継続してほしい。	
				よこやま保育園	・子育てステーション事業、わくわく保育事業で園庭開放「園庭で遊ぼう」、園内開放では「保育園のおもちゃで遊ぼう・大型絵本・エプロンシアター・手作り楽器など」を計画し、実施する。	・新型コロナウイルス感染対策をしながら開催をした。 ・コロナ禍(オミクロン)のせいか、昨年度よりは参加人数が減っていた。	園庭が狭いため、園児との遊び方に保育士の仲立ちをしっかりと行う。保育活動を工夫する。コロナ禍の中、どのようなあそびができるのか検討していく。	・園児との交流を更に深めたり、経験できる場に行きたい。	
さんだのもり保育園	園庭開放:月4回(毎週水曜日)	・コロナ禍で参加者が少なく来れない日もあった。 ・園児との交流を経験したり、園を知っていただく良い機会となった。 ・友だちの紹介で利用する方もいた。	・開催日に必ず職員が配置できるとは限らない為、保護者との関わりが難しい時がある。	・特になし					

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート（保育所記載用）

■基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和3年度の取組み内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策	
70	園庭・園内開放	就学前の子どもとその保護者	在宅の子育て家庭に安全な遊び場や交流の機会を提供する。 ●実施場所 保育所・市立幼稚園・認定こども園・私立幼稚園	三田虹の子保育園	子育て支援事業の中で、園内・園庭での遊びを提供してきた。	コロナ下では建物の構造上、出来ることが限られ、対応には苦慮しているのが現状である。	施設の構造上、自由に園庭開放することが難しい。	建物の構造上の制約があり、提供方法は常に課題となる。引き続き、少人数での受け入れとなるが、安全なスペースとして遊具の提供を行い、遊ばせながら保護者に寄り添い話を聴く等の活動を継続する。	
				こぐまプリスクール三田園				園庭はなく、園内の広さも開放できる規模ではない為、実施は厳しい。	
				やよいキッズ	同一法人連携園での園庭開放等。	・継続的に園庭開放を利用する家庭もあったが、園庭開放を知らない家庭もあった。	・親子&保護者同士の交流のきっかけ作りの場の提供。	・連携園の園庭開放の案内を園内に掲示し情報提供をする。	
				ミルクたんぽぽ園	実施なし				
				湊川短期大学附属ぼるとこども園	実施なし				
				けやきキッズガーデン	実施なし				
				コスモチャイルド保育園三田園	・実施なし			・商業施設内の保育園なので園庭はなく、園内で開放できるスペースがない為実施は厳しい。	